令和８年(2026年)１１月９日
子ども文教委員会資料
教育委員会事務局指導室

区立中学校における生成AIの導入について

生成AIは社会全体で急速に普及しており、中学生においても既にスマートフォン等を通じて利用が広がっている。その一方で、誤情報への対応、個人情報保護、著作権への配慮など、適切な利用に必要な知識や判断力の育成が課題となっている。

このため教育委員会としては、生成AIについて学校教育の中で適切な利用方法を学ばせるとともに、教員による効果的な授業改善や校務の効率化を図るため、安全な利用環境の整備及びガイドラインの策定等を進めているので、その取組状況について報告する。

１　生成AI導入に向けたこれまでの取組概要について

（１）実態把握
中学生及び中学校教員へのアンケート調査を実施した。

（２）環境整備
教員及び中学生が安全に利用できる環境の整備を進めている。

（３）教員研修
研修や研修動画配信等により、教員に生成AIの特性や留意点、授業での利用方法を周知している。

（４）ガイドライン策定
調査結果や専門家の知見を踏まえた利用指針の作成を進めている。

２　生成AI利用に関する実態把握調査について

（１）調査概要
①対　象　(ア)区立全中学生
　　(イ)区立全中学校教員
②方　法　オンラインによるアンケート調査
③期　間　１０月１４日～１０月２２日

（２）回答状況（人）
①区立中学生

学年	１年生	２年生	３年生	合計
人数	７３６	６８１	７３０	２１４７

②区立中学校教員

職層	管理職	教員	その他	合計
人数	１１	１０６	３	１２０

（３）回答結果
別紙１・２のとおり。

（４）結果分析
①区立中学生
ア　利用経験について
利用経験がある中学生が全体の９４％程度。そのうち

「毎　　日」…１６．７％程度
「週に数回」…５４．３％程度
学年別の利用経験率は、中学１年生の８９．７％に対して中学２・３年生は９６％を超えており、学年進行に伴い利用経験が増加する傾向が見られる。また、男女別の利用経験率は、男子が９２．８％、女子が９５．４％となっている。

イ　利用目的について
「調べ学習」（７４．５％）
「相談・質問」（５６．４％）
「趣味・遊び」（４８．９％）
「画像作成」（２６．９％）
「宿題」（２５．９％）
「英語学習」（２２．１％）
「作文やレポート作成」（２０．２％）の順に多い。

ウ　学校での利用希望について
「ぜひ利用したい」（３９．８％）
「利用したい」（４６．８％）
合わせると８６．６％以上が学校での利用に肯定的な意向を示している。また、学年が上がるにつれ、意欲の高い「ぜひ利用したい」生徒の割合が増加している。

エ　不安や課題について
生徒が感じている不安は、
「間違った情報が出てきそう」（７３．３％）
「悪用する人がいそう」（６１．４％）
「個人情報が漏れそう」（５２．８％）
「依存しそう」（２５．７％）の順に多い。
一方で、以下の問いについて知らない・聞いたことがある程度と答えた生徒は、
「個人情報を入力してはいけない」２４．４％
「著作権に注意が必要」３０．５％
と、十分な理解が浸透していない可能性がある。

②区立中学校教員

ア　利用経験について
利用経験がある教員が全体の９６．７％程度であり、そのうち
「毎日」が２１．７％程度
「週に数回」が４６．７％程度

イ　利用場面について
教育活動で「利用している又は検討している」教員は８４．２％程度おり、
利用している又は検討している場面は
「教材作成」（７４．３％）
「各種便り作成」（４６．５％）
「通知文作成」（４４．６％）
「学習指導」（３６．６％）
「テスト問題作成」（３１．７％）の順に多い。

ウ　学校利用への賛否について
「積極的利用」（１５．８％）
「条件付き利用」（５５．８％）
「慎重に利用」（２６．７％）
「利用すべきではない」（１．７％）

一定のルールや条件が整えば利用できると考える層が最多となっている。

エ　懸念事項について

まず、

「依存・過度利用」（９０．８％）

「AI の回答を鵜呑みにする」（８５．８％）

「思考力低下」（７９．２％）

「宿題や課題の丸写し」（７０．０％）

など、生徒の学びや思考力への懸念がある。

また、

「個人情報保護・漏洩」（９１．７％）

「著作権侵害」（８５．８％）

「人権侵害・いじめ」（７１．７％）

「不適切な利用」（６２．５％）

「情報の真偽判断」（６０．８％）

など、情報モラルや情報セキュリティ等の懸念もある。

③中学生と中学校教員の認識差

ア　利用経験について

利用経験について 中学生は９４．０％、教員は９６．７％と、双方ともに高い利用経験率を示している。 日常的な利用頻度においても、「毎日・週に数回」と答えた割合が双方ともに７０％程度となっている。

イ　学校での利用期待について

中学生は

「ぜひ利用したい」３９．８％

「利用したい」４６．８％

合わせると８６．６％が学校での利用を希望している。

それに対し、教員側は、

「積極的に進めるべき」１５．８％

「条件付きで進めるべき」５５．８％

にとどまっている。

生徒は主に

「勉強が分かりやすくなる」（７０．４％）

「新しいアイデアが得られる」（６６．９％）

「学習が効率的になる」（６５．４％）

といった直感的な学びの質向上や効率化に期待を寄せている。

一方で、教員は生徒の利用場面として

「情報収集」（７４．２％）

「アイデア出し」（５６．７％）

「文章推敲」（４３．３％）

などの補助的な活用にとどめるべきと考えている。

ウ　リスク認識について

多くの中学生が

「AI が間違った回答をすることがある」（８８．４％）

「個人情報を入力してはいけない」（７５．６％）

といった、直接的な AI の特性やルールについて、一定の認知をもっている。

一方で教員側は、ツール自体の精度にとどまらず、

「依存・過度利用」（９０．８％）
「AI の回答を鵜呑みにする」（８５．８％）
「思考力低下」（７９．２％）
「宿題の丸写し（不正利用）」（７０．０％）
など、生徒の主体的な思考プロセスや学力への長期的・教育的な悪影響まで幅広くリスクを警戒している。

④まとめ
生徒の間では既に生成 AI の利用が進んでおり、日常的に接する情報技術となっていることが確認された。一方で、著作権や個人情報保護に関する理解が十分とは言えず、正しい利用方法を学ぶ機会の必要性が明らかとなった。
また、教員においては、生成 AI の活用による授業改善や校務効率化への期待は高い一方、生徒の思考力低下等への懸念も強く、利用に当たってはガイドラインの整備や研修の充実を求める声が多く見られた。
このことから、学校教育の中で適切な利用ルール及び AI リテラシーについて指導するとともに、安全な利用環境を整備しながら、教育活動における生成 AI の活用を段階的に進める必要がある。

３　ガイドラインの策定状況について
（１）策定の目的
中野区立学校における教員の校務及び授業等での活用や中学生の学習活動において、生成 AI の適切な利用に関する基本的な考え方を示すとともに、安全かつ効果的な活用を推進するものである。中学生が生成 AI の利用を通じて、生成 AI の特性や留意点を理解し、その出力を吟味しながら適切に活用する力や、自ら課題を設定し、生成 AI との対話を通じて解決を図る力など、これからの社会で求められる情報活用能力を育成するとともに、教員の授業準備や教材作成等の業務改善を図り、教育活動の充実につなげることを目的とする。

（２）検討経過
令和８年７月　生成 AI 利用に関する検討会（第１回）
８月　生成 AI 利用に関する検討会（第２回）
９月　生成 AI 利用に関する検討会（第３回）

（３）子どもや保護者等の意見の反映
「（仮称）生成 AI 利用に関するシンポジウム」を次のとおり開催し、子どもや保護者、外部専門家等の意見を聴取してガイドラインに反映する予定である。
①概　　要
ア　区立中学校における生成 AI 試行導入実施報告
イ　基調講演（東京学芸大学附属小金井小学校　教諭　鈴木　秀樹　氏）
ウ　パネルディスカッション
（外部有識者・区立中学生・区立中学校保護者・教育委員会）
エ　参加者との意見交換
オ　アンケート記入
②開催日時　令和９年２月下旬
③場　　所　中野区役所会議室
④参 加 者　区立中学生、保護者、学校関係者、区民、大学及び ICT 関係者　約 30 名

（４）ガイドラインの運用・改善

生成 AI を取り巻く技術や社会環境は急速に変化しており、教育現場に求められる対応も変わっていくことが想定される。このため、ガイドラインについては、国や東京都の動向、学校現場における運用状況、中学生及び教員からの意見等を踏まえ、毎年度内容を検証する。また、検証結果に基づき必要な見直しを行うことで、安全かつ効果的な生成 AI の活用を継続的に推進していく。

４　環境整備の状況について

（１）生成 AI の利用環境

①【整備済み】教職員用端末（指導者用コンピュータ、先生用学習用 iPad）

②【整備予定】生徒用学習用 iPad

（２）利用する生成 AI ツール

ツール名	提供元	特徴・教育活動における位置づけ
Gemini	Google	対話型生成 AI。質問応答、文章推敲、多言語翻訳、プログラミングコード作成・解説、ブレインストーミング等に利用可能。
Gemini Notebook	Google	アップロードした資料（PDF や Google ドキュメント等）をベースに学習・対話ができるツール。振り返りシートの要約や学習アシスタントに利用可能。

（３）利用する生成 AI ツールの選定理由

区立学校では、これまで全校で Google が提供する無償の教育用サービスを活用しており、教員及び生徒は Google の教育用アカウントを利用して学習用端末を使用している。Gemini も、こうした既存の学習環境の中で、無償で利用することができる。また、教育委員会が利用者アカウントを一元的に管理できるほか、利用できる機能の制限や安全対策に関する設定を行うことが可能である。これらを踏まえ、新たなシステム整備や運用負担を最小限に抑えながら、安全かつ効率的に無償で導入できることから採用するものである。

（４）安全対策

中学生及び教員が生成 AI を安全に利用できる環境を確保するため、教育委員会が管理するアカウントに限定して利用することで利用者を適切に管理するとともに、個人情報の入力禁止、利用履歴の管理、利用しない生成 AI サービスのフィルタリング等の技術的対策を講じる。また、ガイドライン及び教員研修を通じて適切な利用を徹底し、教育活動における情報セキュリティの確保及びリスク低減を図る。

５　教員研修等の実施状況について

（１）校・園長研修【令和８年 12 月実施予定】

①テ ー マ　「GIGA スクール構想と目指す学び」

②受講対象者　区立幼稚園長・小・中学校長

③概　　要

新しい学習指導要領を見据えた学校運営と最新の情報教育の知見を得る。

（２）副校・園長研修【令和７年 11 月実施済】

①テ ー マ　「生成 AI の学校教育への活用について」

②受講対象者　区立幼稚園副園長・小・中学校副校長

③概　　要　生成 AI の活用と今後の児童・生徒の学びの可能性について考える

（３）研究主任研修【令和８年７月実施済】
①テ ー マ　「生成 AI を活用した授業改善について」
②受講対象者　区立小・中学校研究主任教員
③概　　要　生成 AI を活用して深い学びを実現する指導方法を学ぶ。

（４）ICT 教育推進リーダー研修（年２回）【令和８年４・６月実施済】
①テ ー マ　「校務における生成 AI の利用について」
②受講対象者　区立小・中学校 ICT 教育推進リーダー教員
③概　　要　校務における生成 AI の活用方法を、講話や他校の教員との協議を通して学ぶ。

（５）ICT 教育推進リーダー研修【令和８年７月実施済】
①テ ー マ　「情報セキュリティポリシー演習」
②受講対象者　各校の管理職または情報セキュリティ担当教職員
③概　　要　中野区情報セキュリティについて理解を深め、情報の適切な取扱いを習得する。

（６）教員の生成 AI 活用に関する周知啓発【令和７年度から随時公開】
区立小・中学校教員に向けて操作マニュアルや活用事例等、生成 AI に関する様々なコンテンツを提供し、周知啓発を図っている。
①動画視聴による研修
ア　テ ー マ　「『学びを深める』ための生成 AI 活用研修」
イ　受講対象者　区立小・中学校全教員
ウ　概　　要　生成 AI を利用する前に必ず視聴し、利用上の留意点及び学校での活用方法について学ぶ。
②スライド視聴による研修
ア　テ ー マ　「生成 AI 活用研修」
イ　受講対象者　区立小・中学校全教員
ウ　概　　要　生成 AI についての基礎知識と基本的な使い方について学ぶ。
③「中野区生成 AI 教職員利用の手引」の配信
ア　対 象 者　区立小・中学校全教員
イ　概　　要　生成 AI の利用上の留意点、校務での活用事例について学ぶ。
④Q&A 集の配信
ア　対 象 者　区立小・中学校全教員
イ　概　　要　対面研修や動画・スライド視聴による研修の受講生やサポートデスクに問い合わせをした教員から寄せられた質問・意見に対する回答を公開し、随時更新している。

６　今後のスケジュール（案）
令和８年１２月　教育委員会情報システム委員会におけるガイドラインの検討
令和９年　２月　シンポジウムの開催・中学生等への意見聴取
　　３月　ガイドラインの策定
　　４月　ガイドラインの周知
　　（校・園長会での説明、学校へ通知、区ホームページへ掲載）
　　中学生による生成 AI の本格利用開始

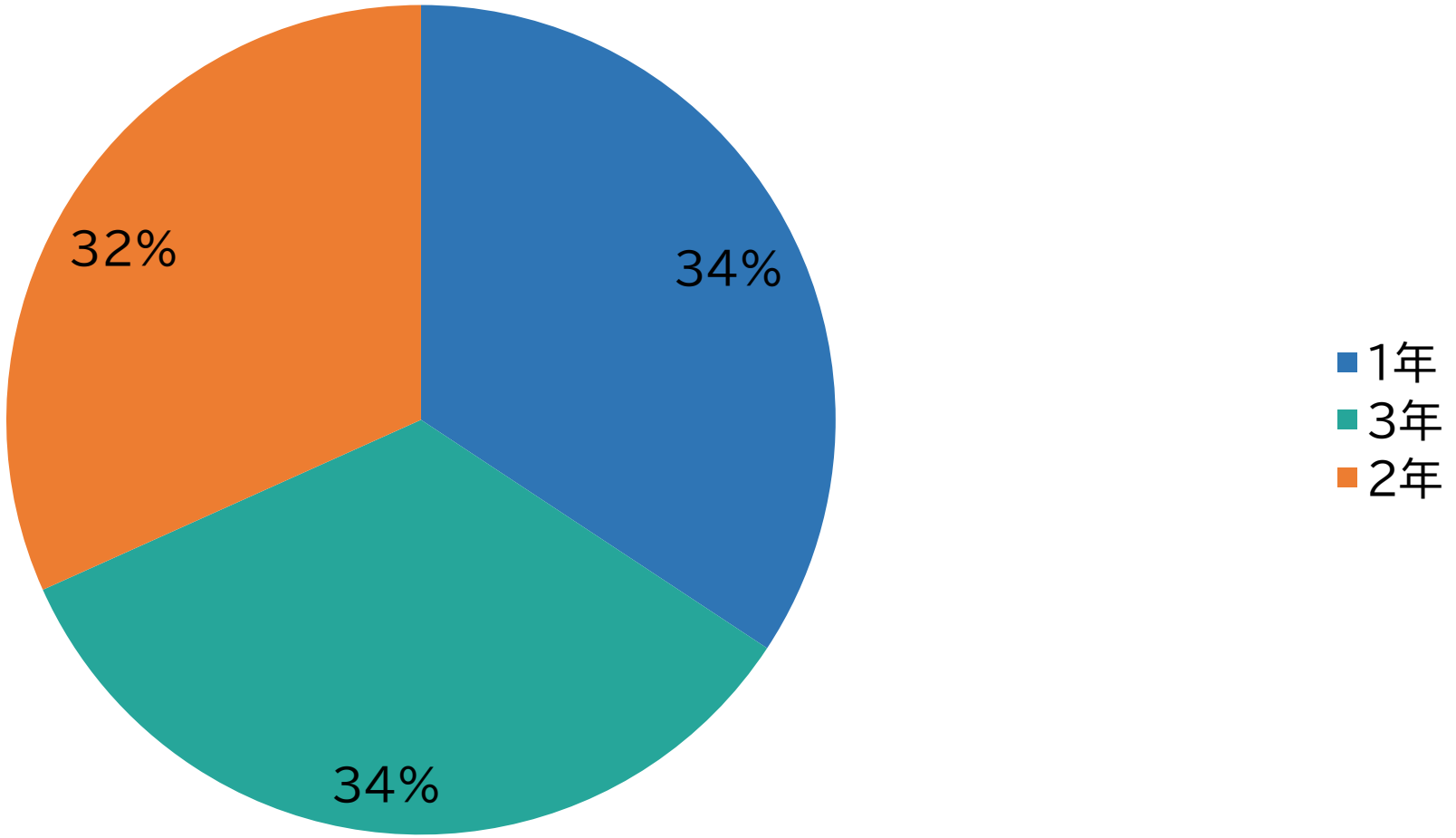
別紙1

中学生の生成AI利用実態調査結果

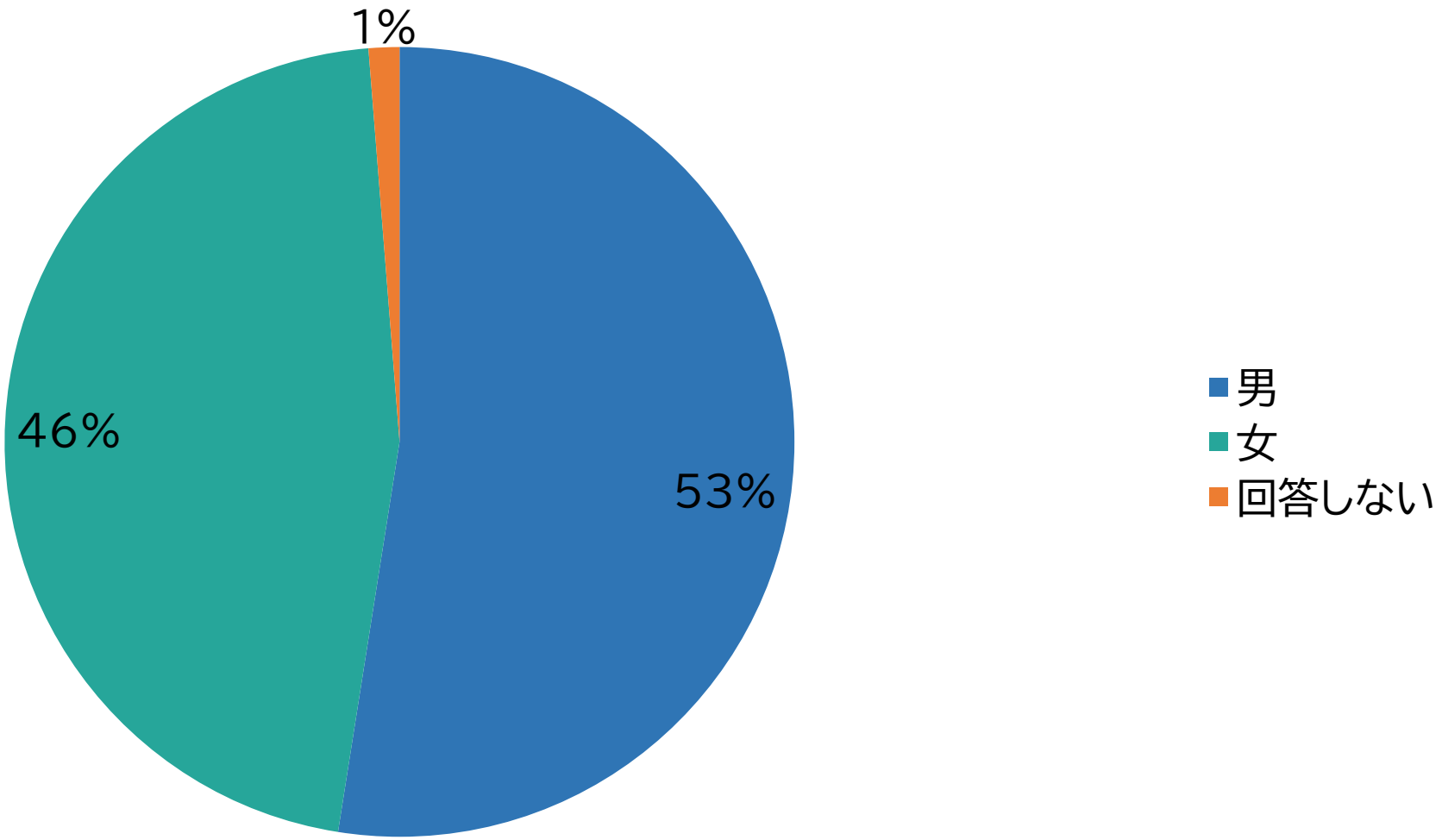
回答者数 2,147人｜回答期間 令和8年10月14日～10月22日

中野区教育委員会
令和8年10月

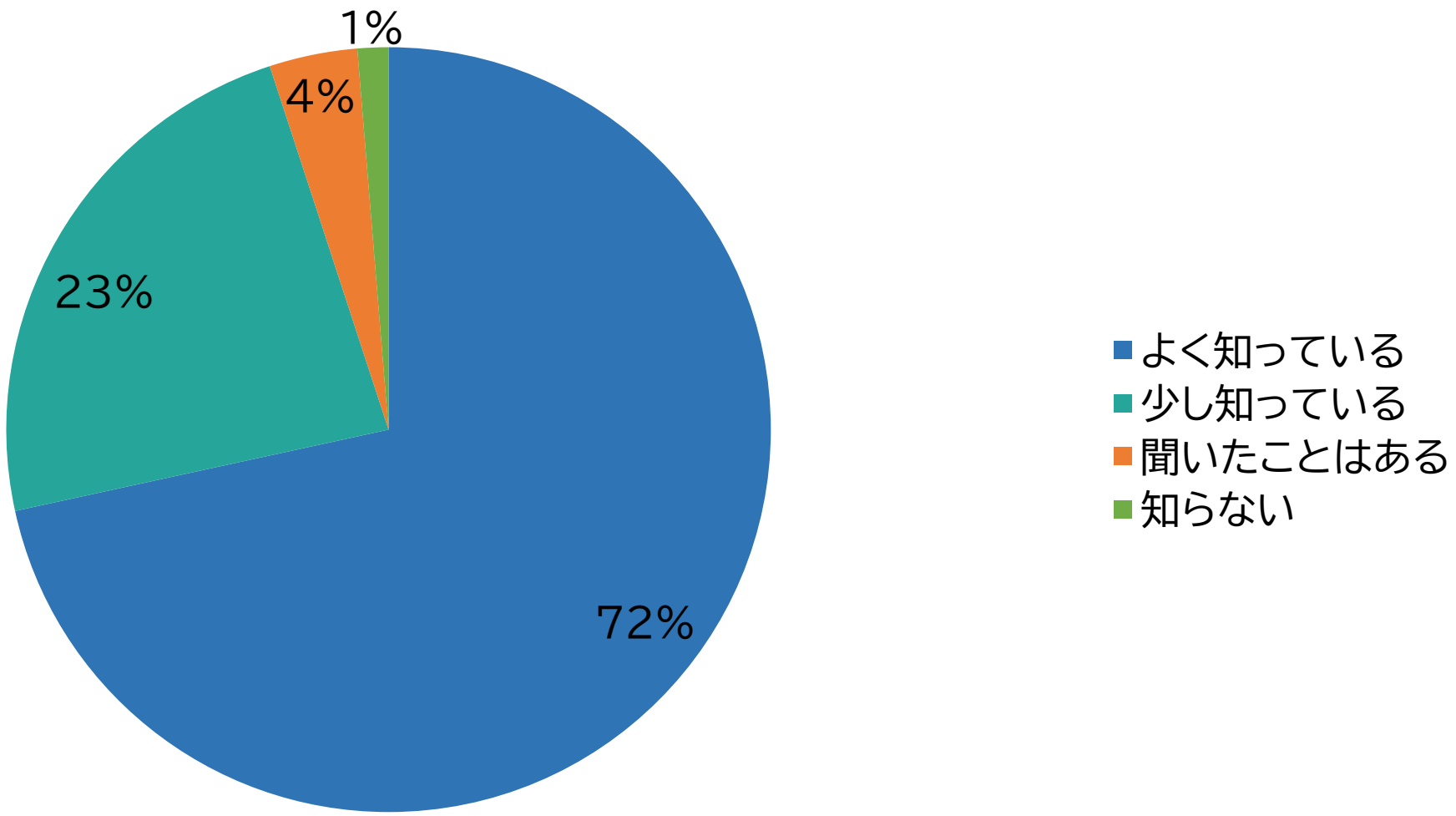
Q1　学年を教えてください



Q2　性別を教えてください

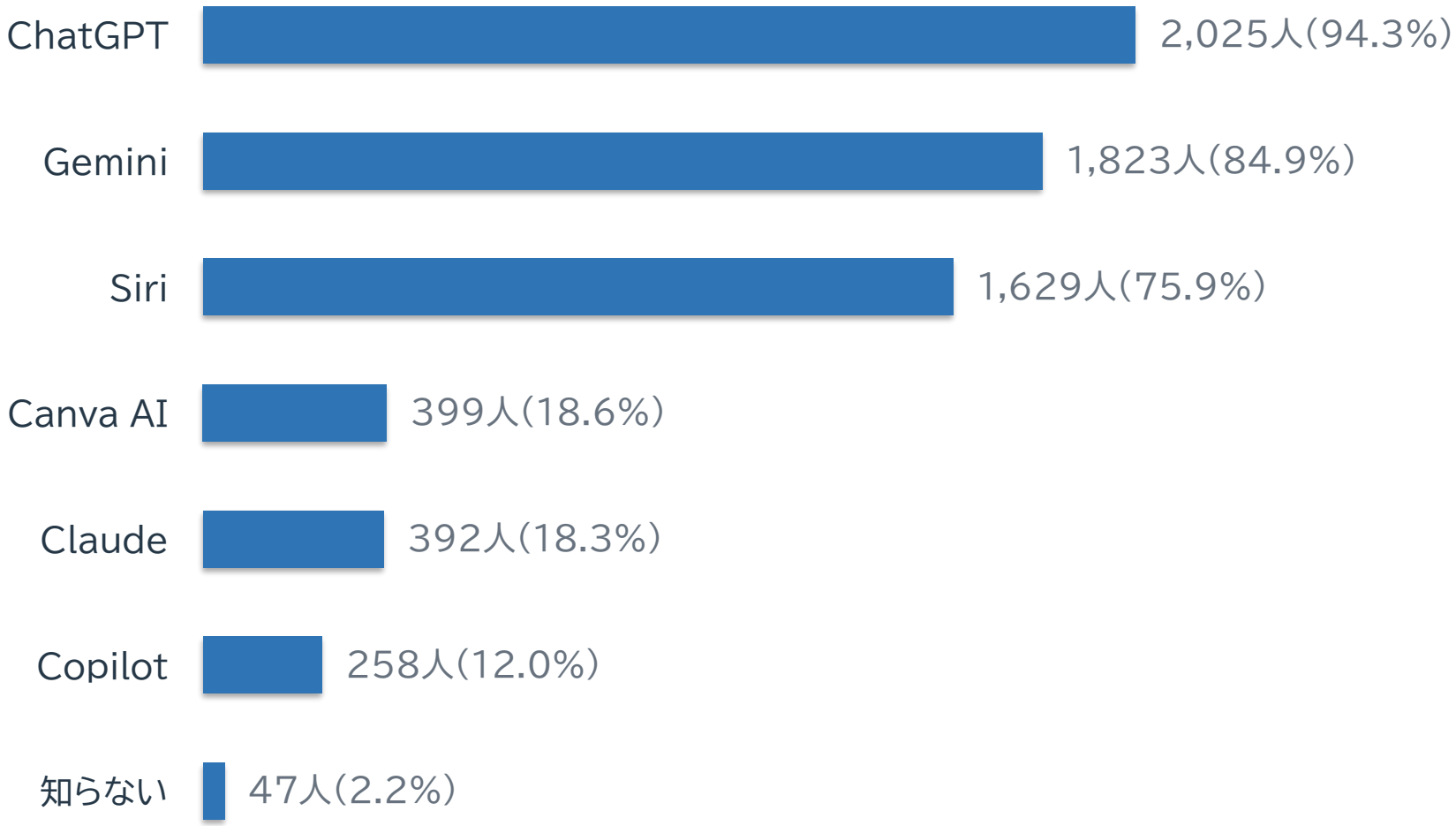


Q3 「生成AI」という言葉を知っていますか

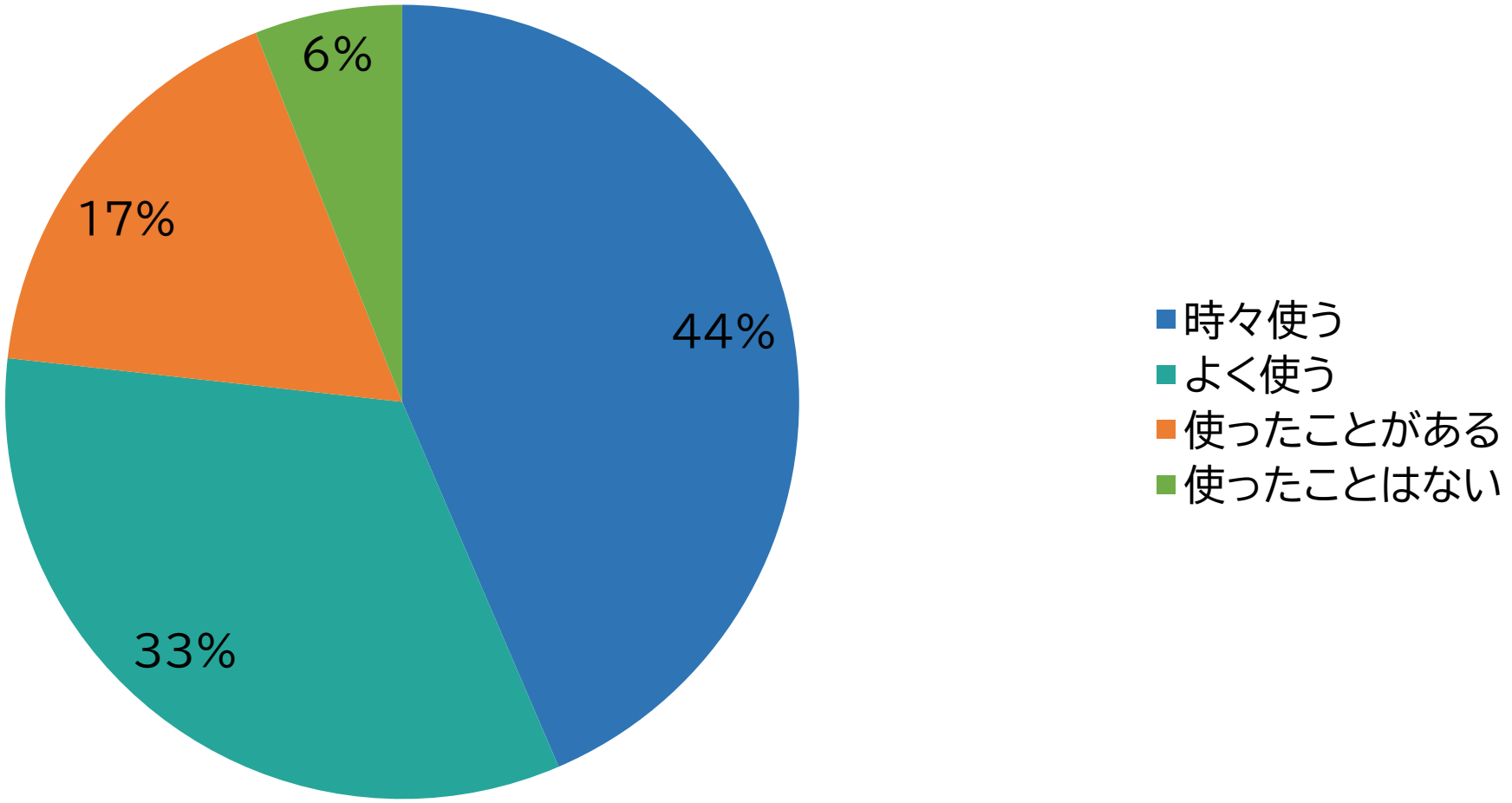


Q4　次のサービスを知っていますか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）

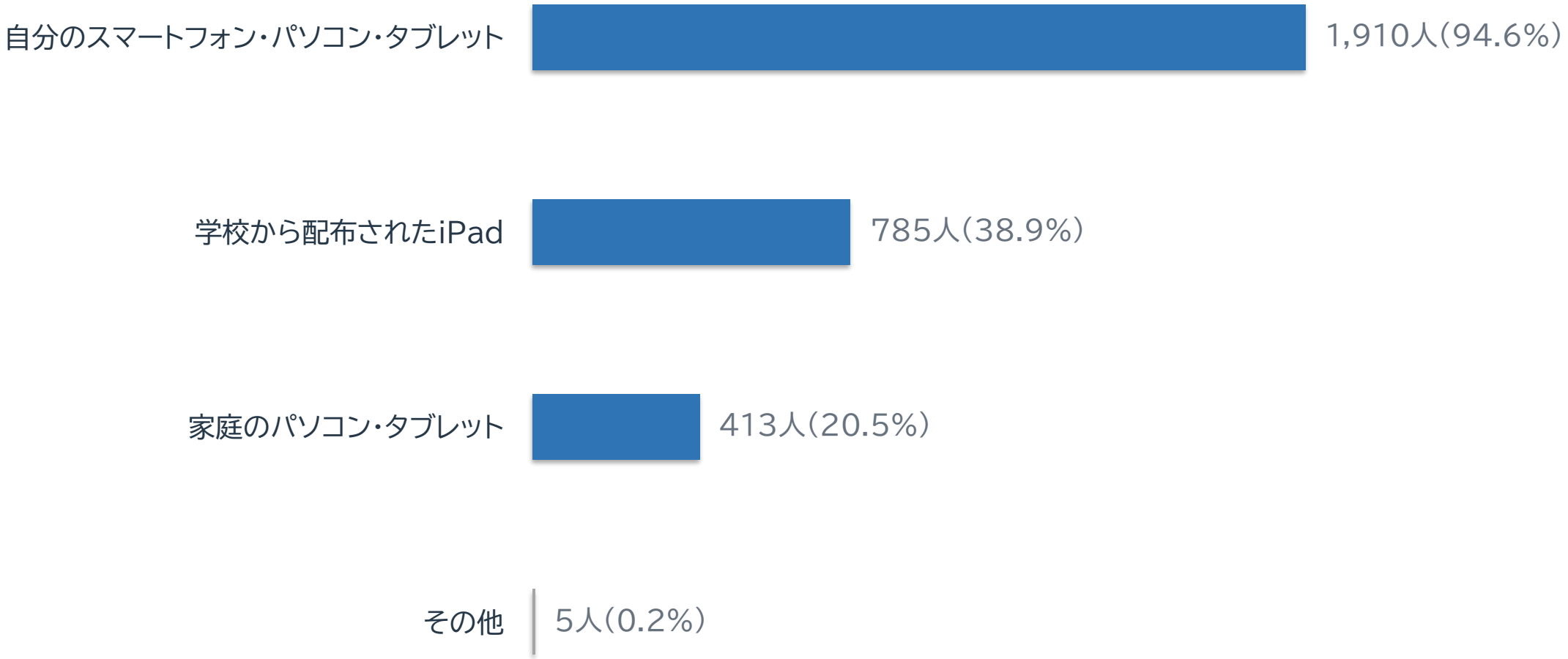


Q5　生成AIを使ったことがありますか

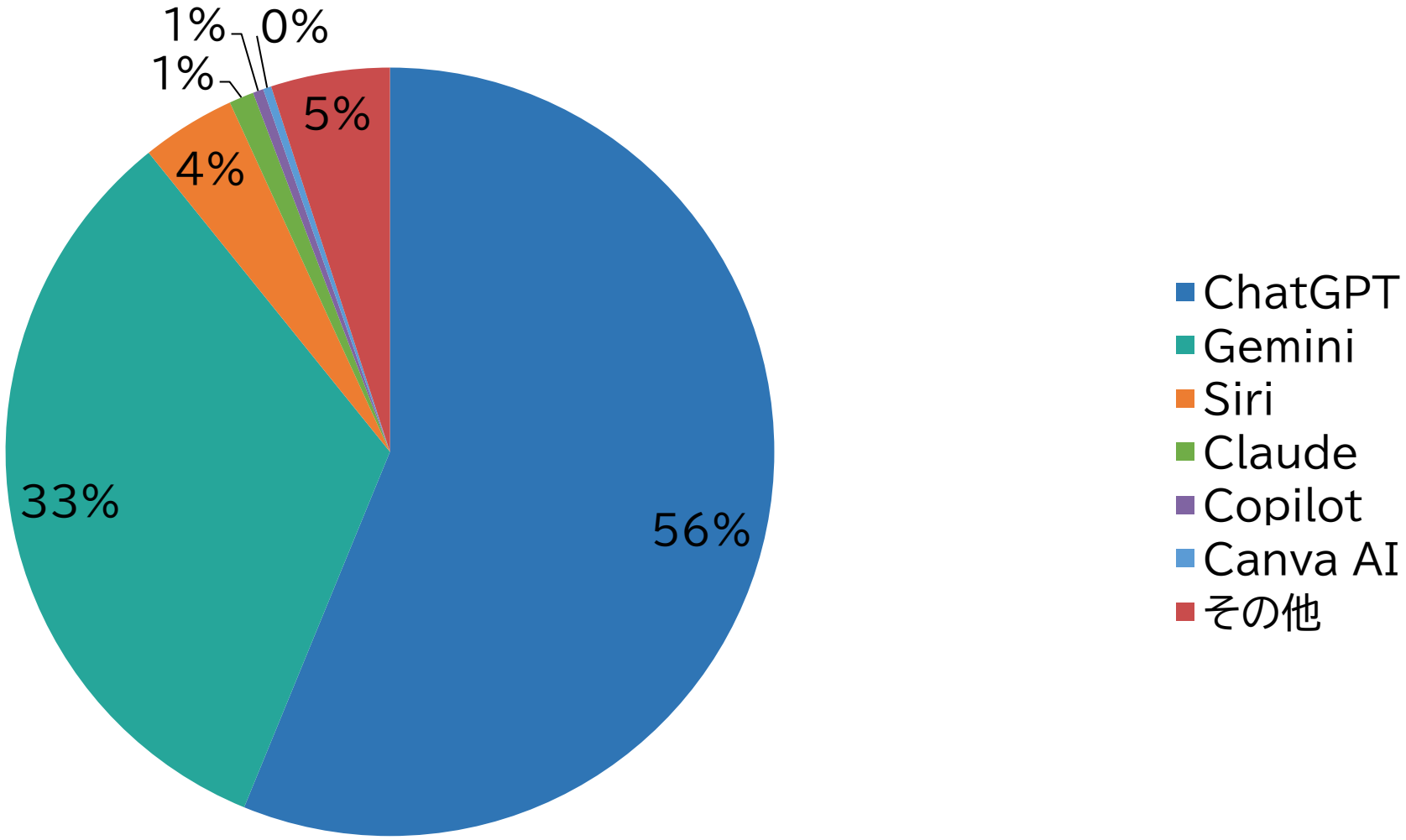


Q6　どの機器で利用していますか（複数回答可）

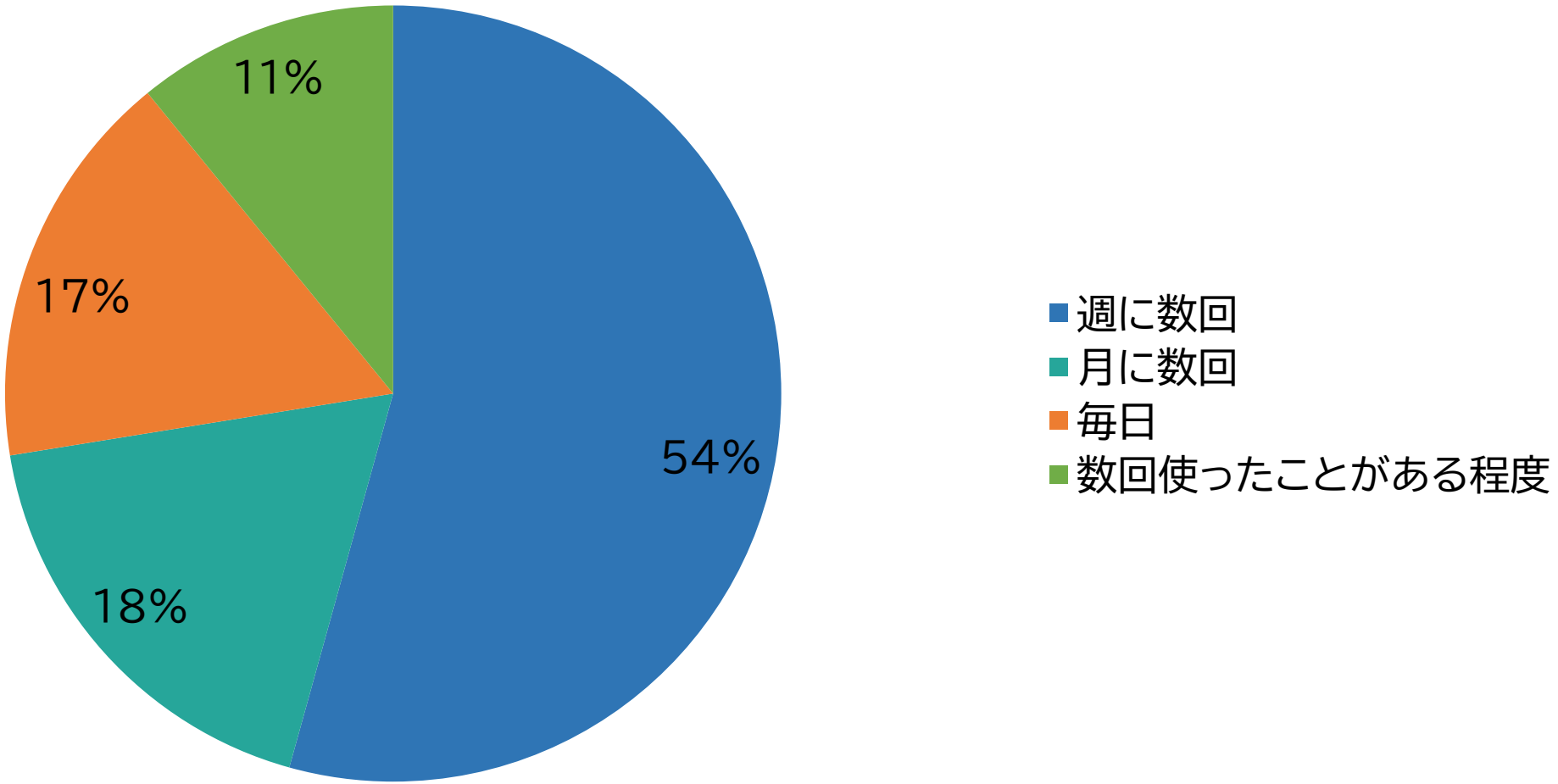
複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



Q7　どのサービスを一番よく利用していますか

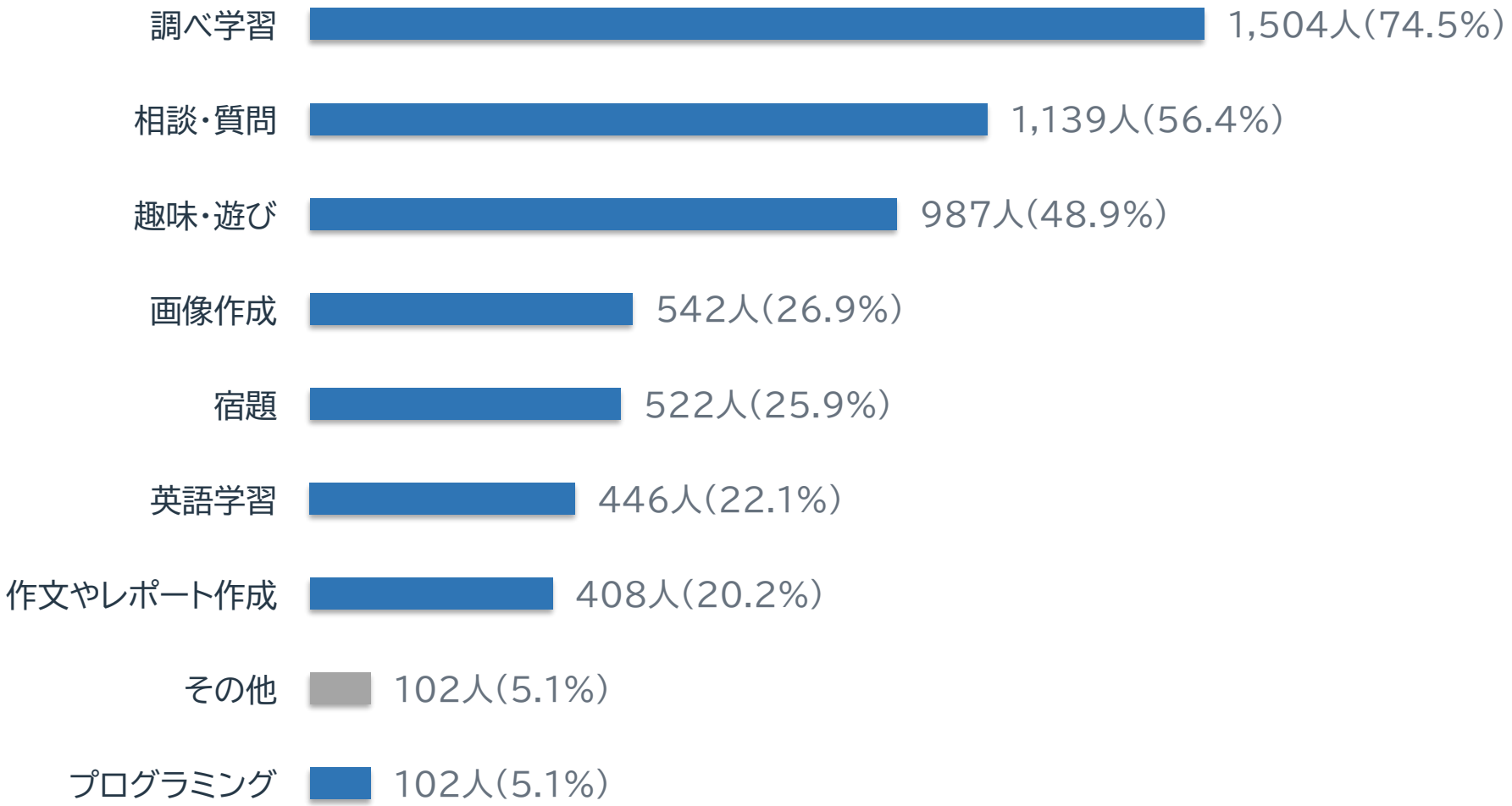


Q8　どのくらいの頻度で利用していますか



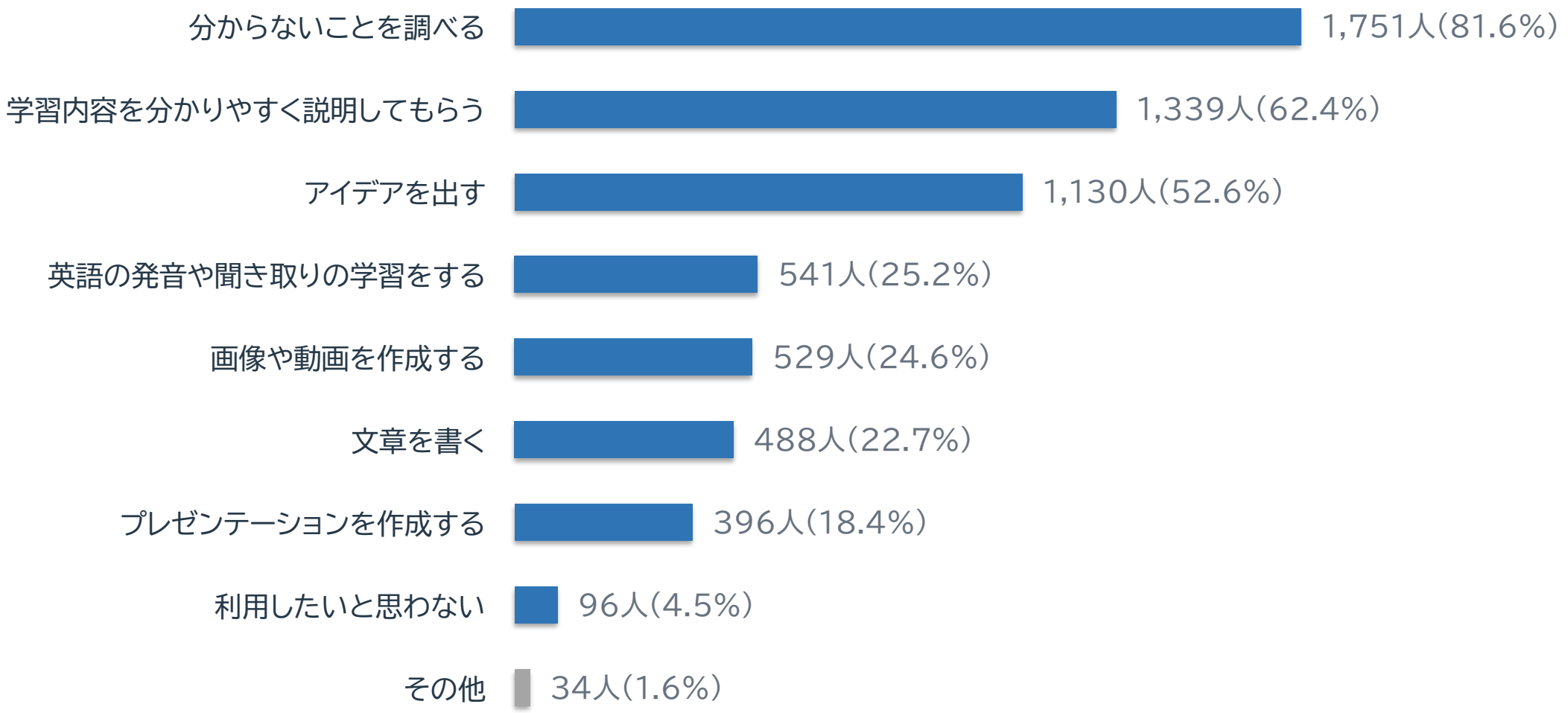
Q9　どのような目的で利用していますか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



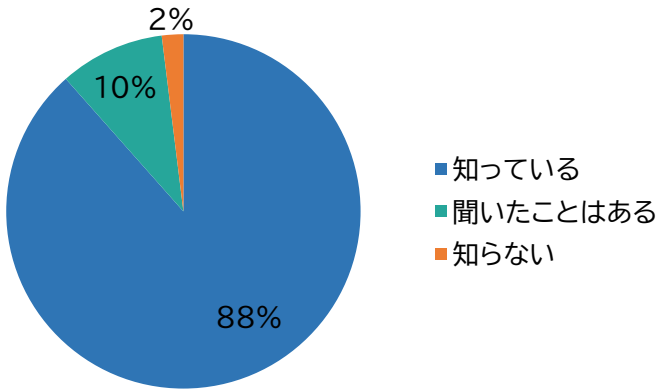
Q10　学校で利用するとしたら、どのような場面で使いたいですか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）

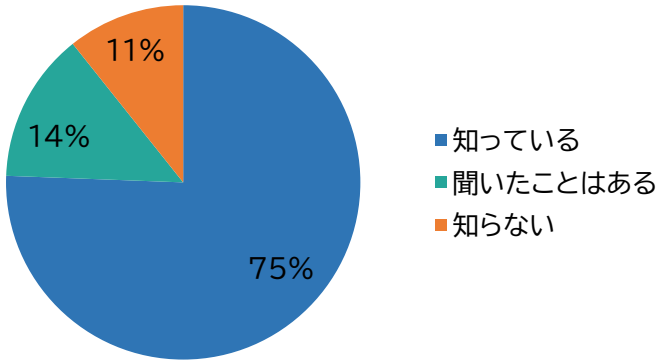


Q11　次の内容について知っていますか

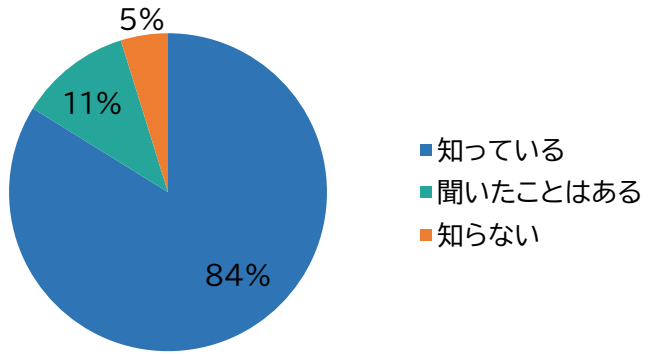
①AIが間違った回答をすることがある



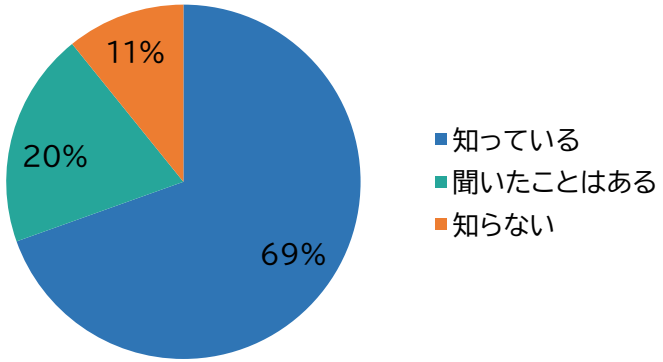
②個人情報を入力してはいけない



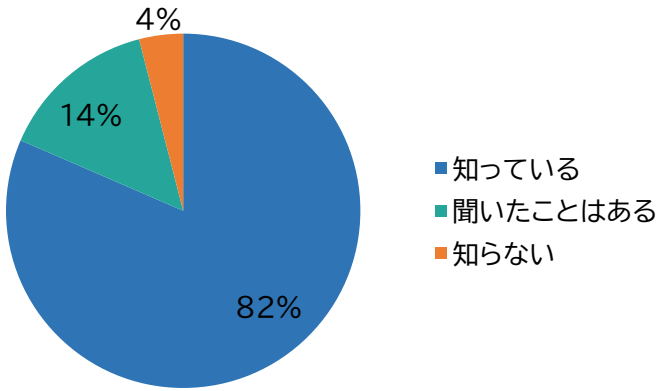
③AIが作った文章をそのまま提出してはいけない場合がある



④著作権に注意が必要である

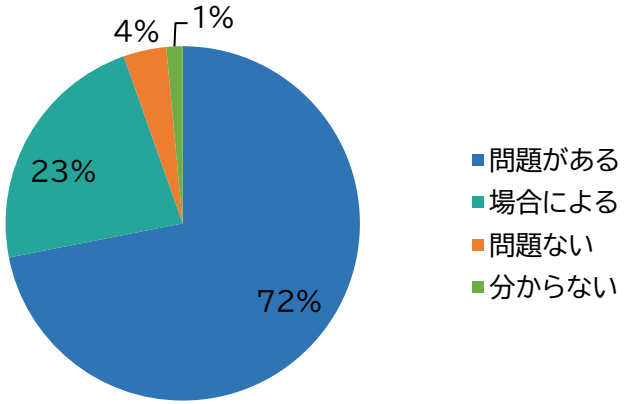


⑤AIは考える手助けをする道具である

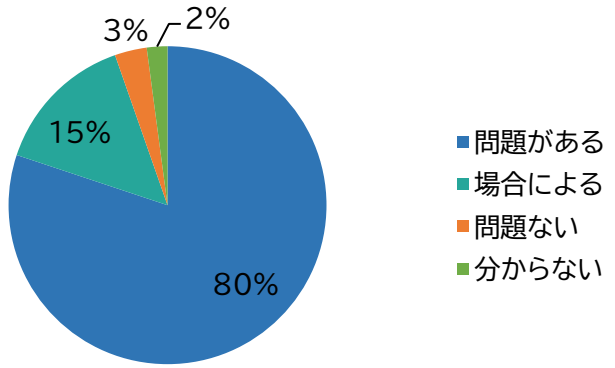


Q12　次の行為についてどう思いますか

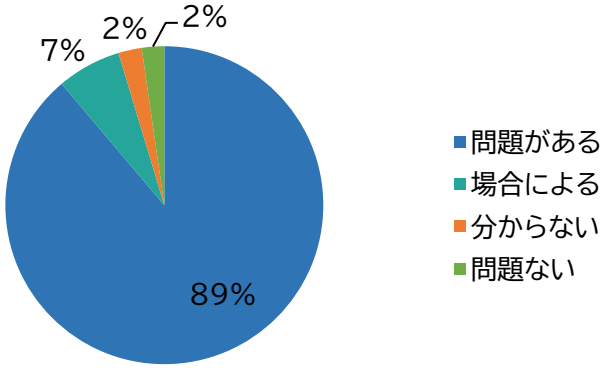
①宿題をすべてAIにやってもらう



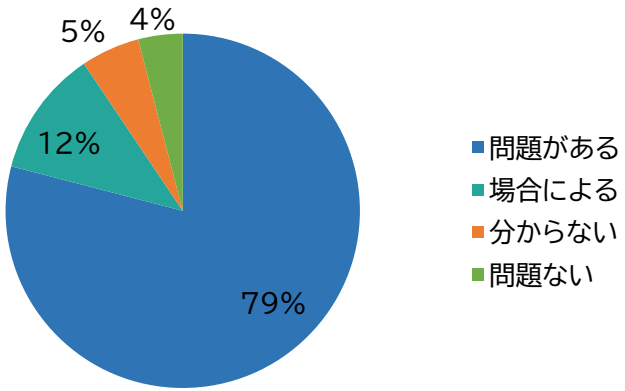
②AIが作成した文章を自分で書いたものとして提出する



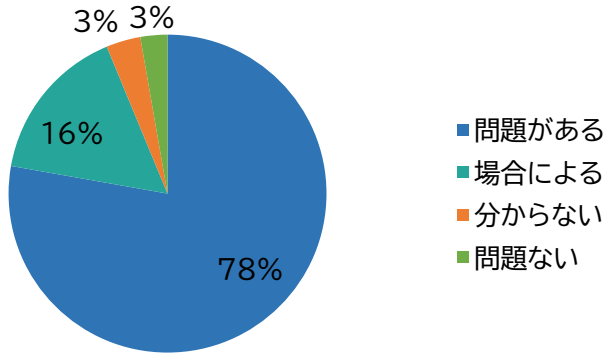
③AIに友達の名前や個人情報を入力する



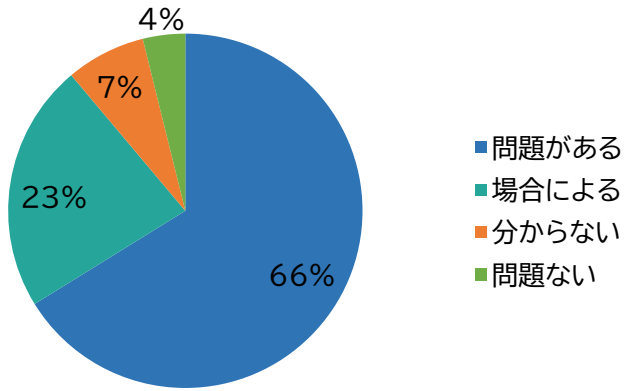
④AIに悪口を書かせる



⑤AIで他人の顔や体などの画像を加工する

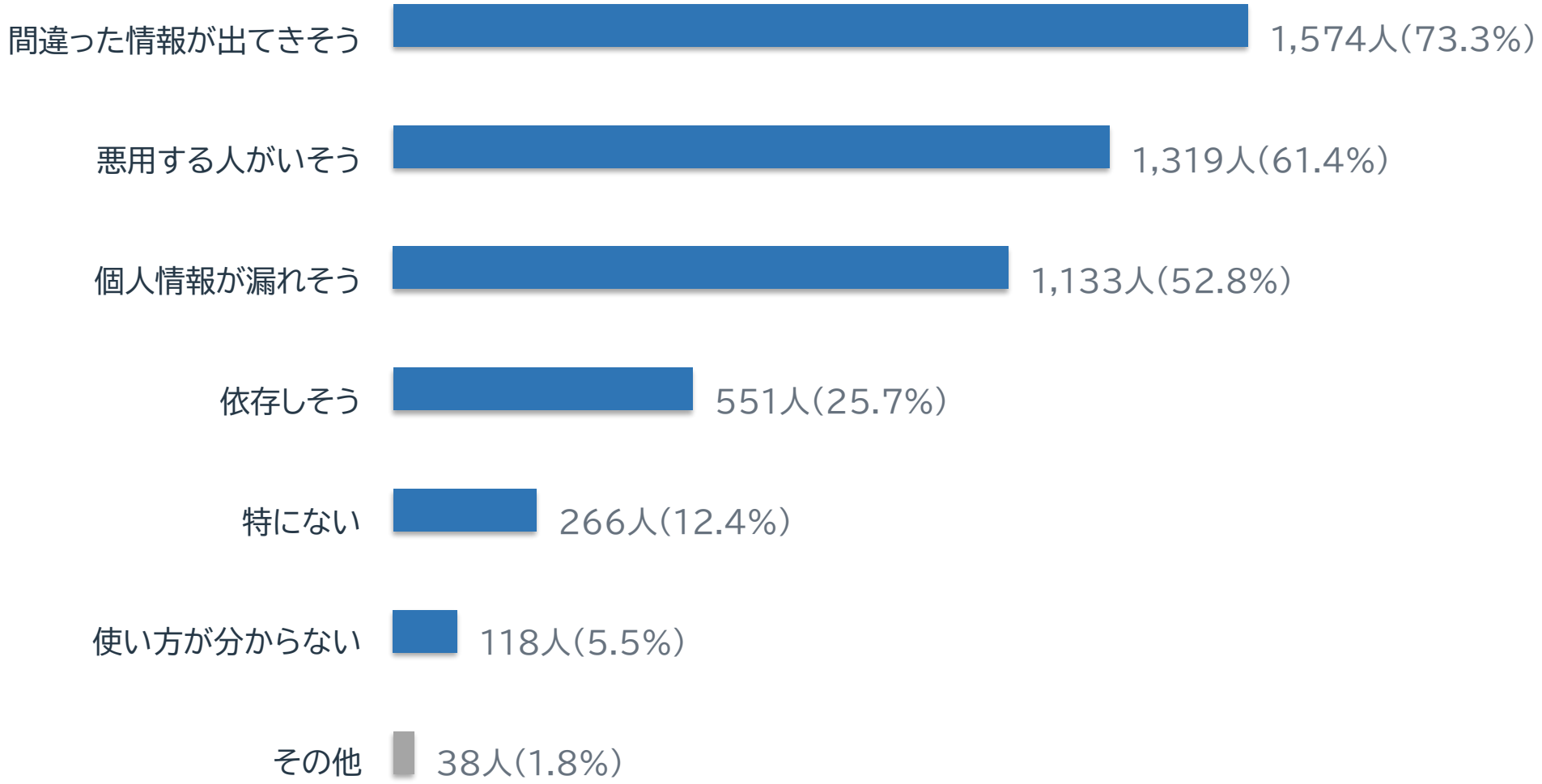


⑥AIで他人の声を加工する



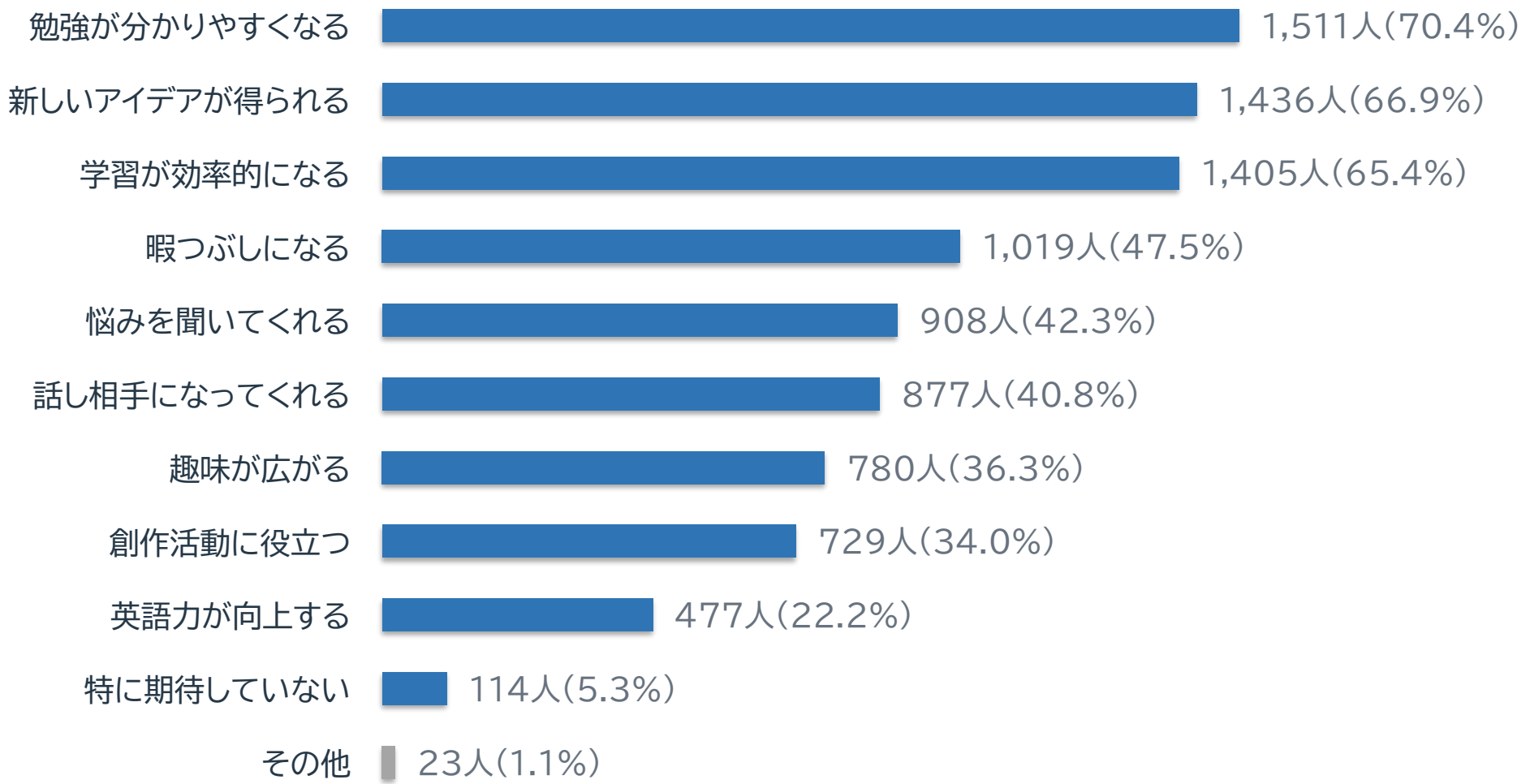
Q13　生成AIについて不安なことはありますか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）

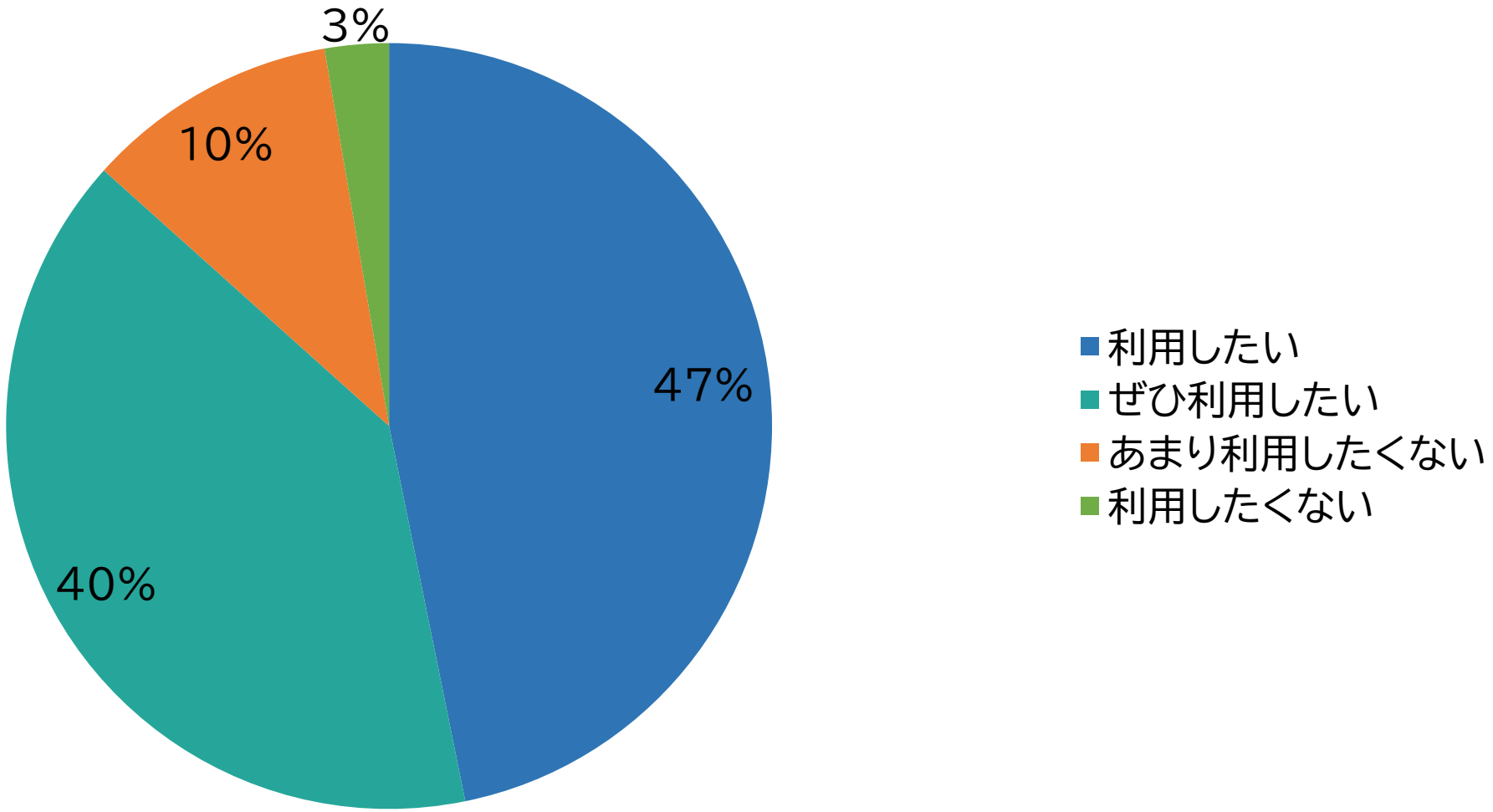


Q14　生成AIを使うことで期待することは何ですか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



Q15　学校で生成AIを利用できるようになった場合、利用したいと思いますか



Q16　学校で利用する場合、どのようなルールが必要だと思いますか（自由記述）

「あくまで学習を手助けするものとして活用し、文章やプレゼンテーション資料を丸々作らないようにするなどのルールを決める。」

「AIが考えたものを丸写しして学習するのではなく、AIが考えてくれたのをも基に、より良い文章にするルールが必要だと思います。」

「あくまでも、学びを広げるために使うというルールが必要だと思う。」

「アイデアを参考にする程度で抑えて、丸々写したりはしない。」

「使わせた時点で、いくらルールを定めようが結果は変わりません。」

「内容を学校側が全面的に監視する制度。そこまで厳しくしないと危険。」

Q17　生成AIについて知りたいことや意見があれば書いてください（自由記述）

「これからの社会で必須になる技術なので、学校での導入をぜひ急いでほしいです。スムーズに使える環境を整えるために、まずは授業の中で「AIの得意なことと苦手なこと」を学ぶ時間を作ってほしいと思います。正しく使うスキルを身につければ、全員の学習効率が大きく上がると感じています。」

「今の時代、AIが必要だと思うから学校で使いたい。わからないことや知りたいことがあるときに使いたい。先生でもわからないことでも、AIはわかるから使いたい。あと、AIなら頼りやすい。」

「生成AIはどうやって人間の言葉を理解して、あんなに自然な文章や画像をパッと作ることができるのか、その仕組みが知りたいです。」

「学校で使う必要はあまりないと思った。」

「良くも悪くも便利なので使い方を誤ると学習には適さなくなってしまうように思います。」

別紙2

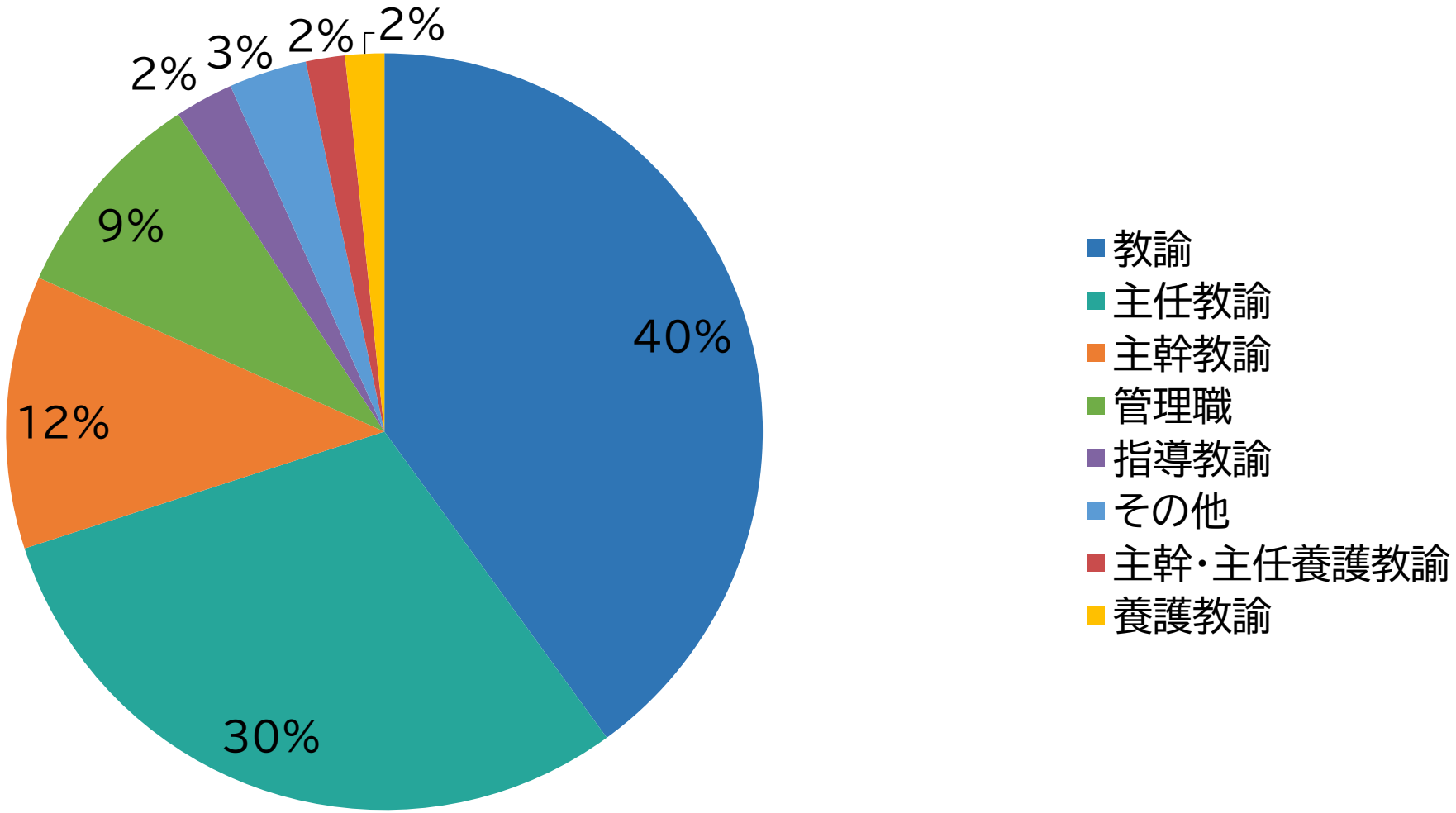
教員の生成AI利用実態調査結果

回答者数 120人｜回答期間 令和8年10月14日～10月22日

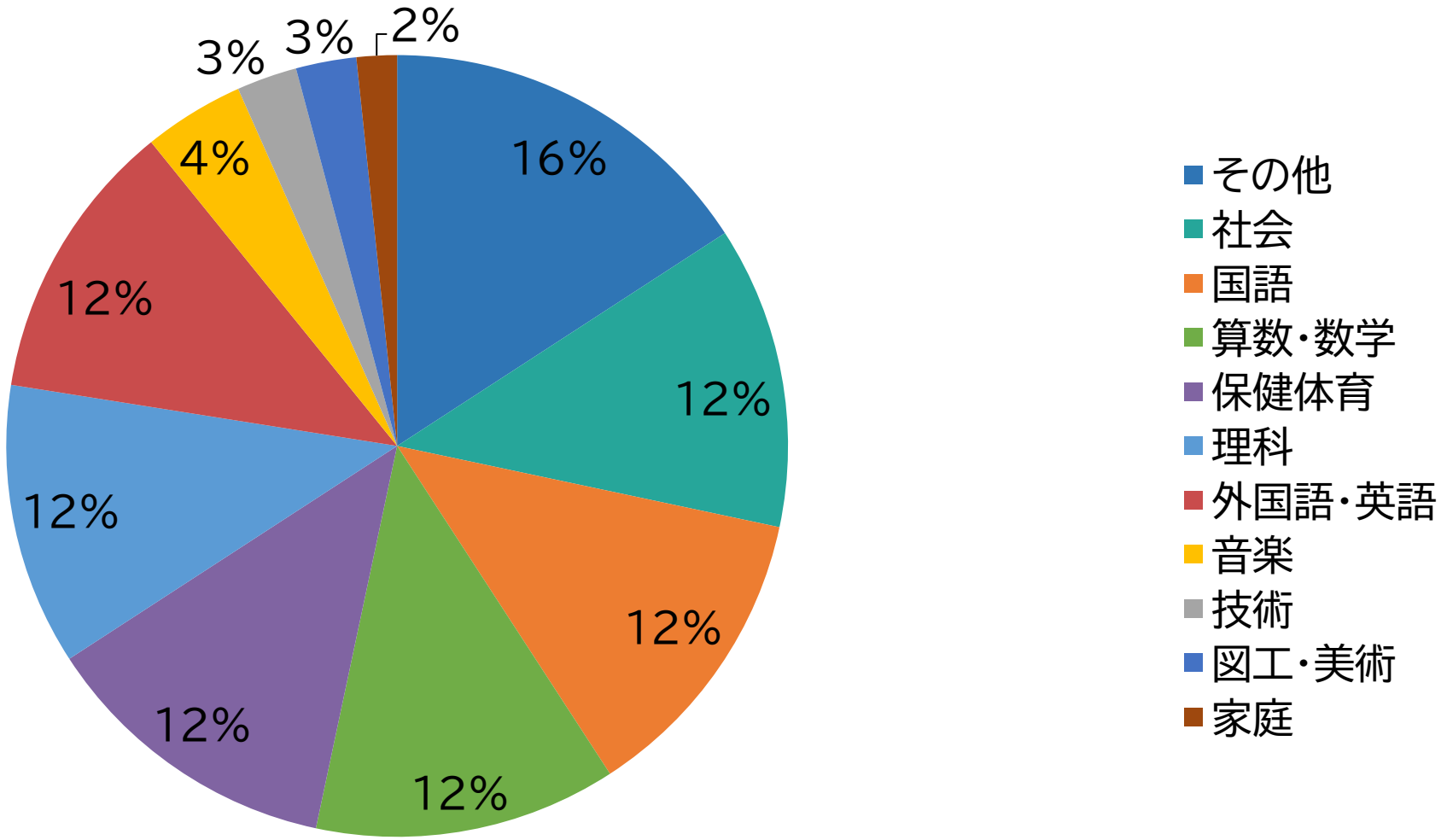
中野区教育委員会

令和8年10月

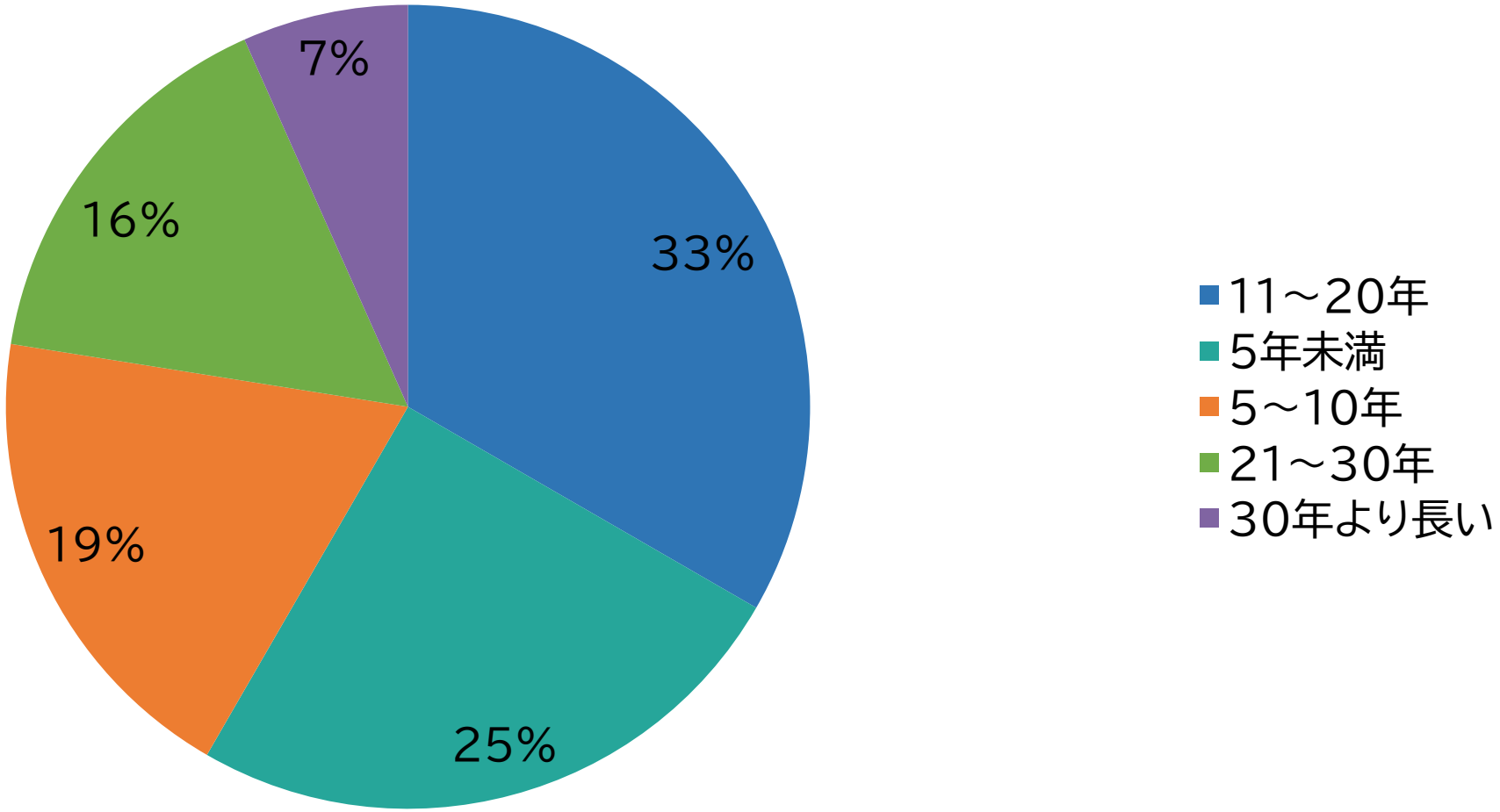
Q1　職名を教えてください



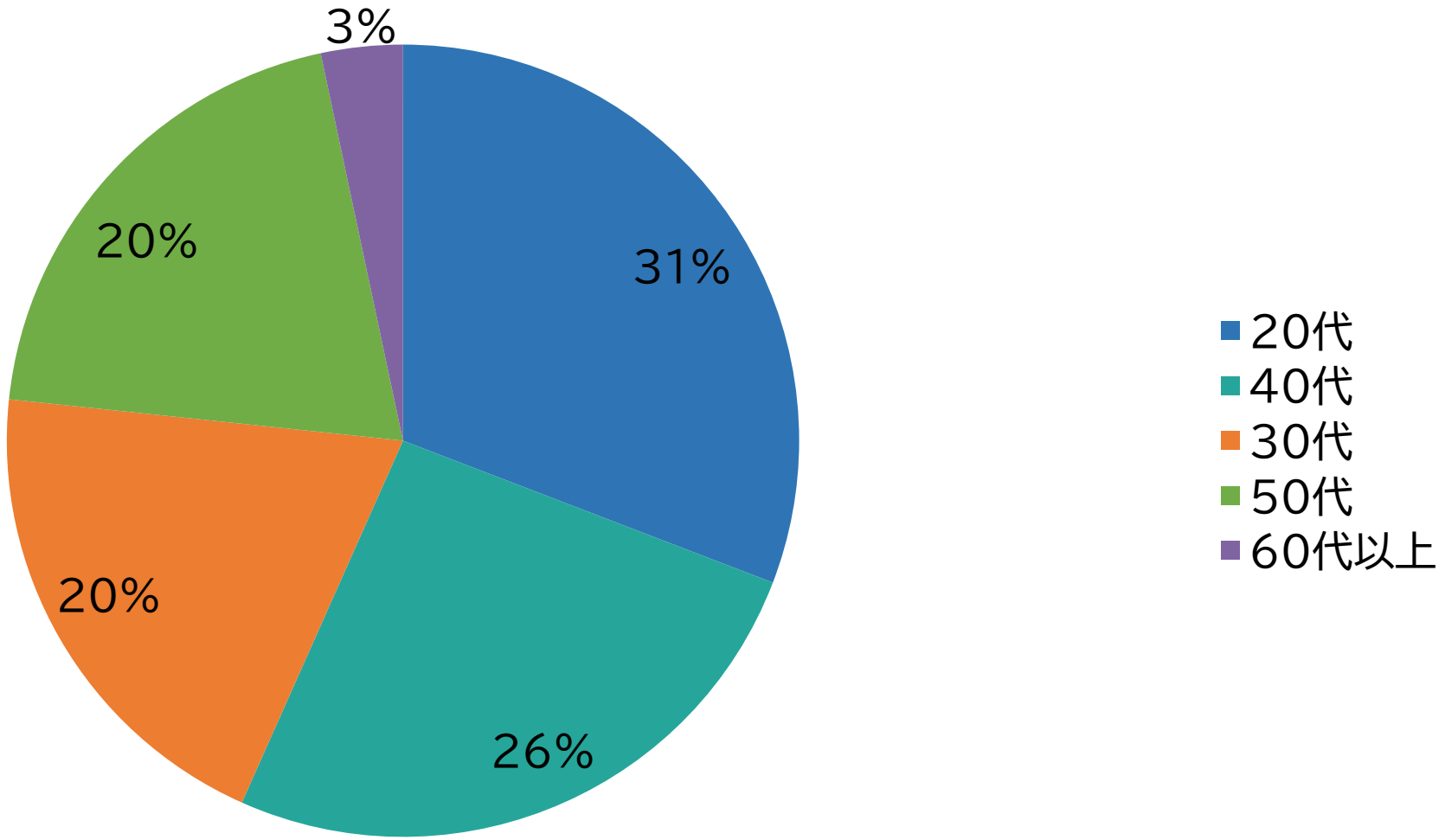
Q2　担当教科を教えてください



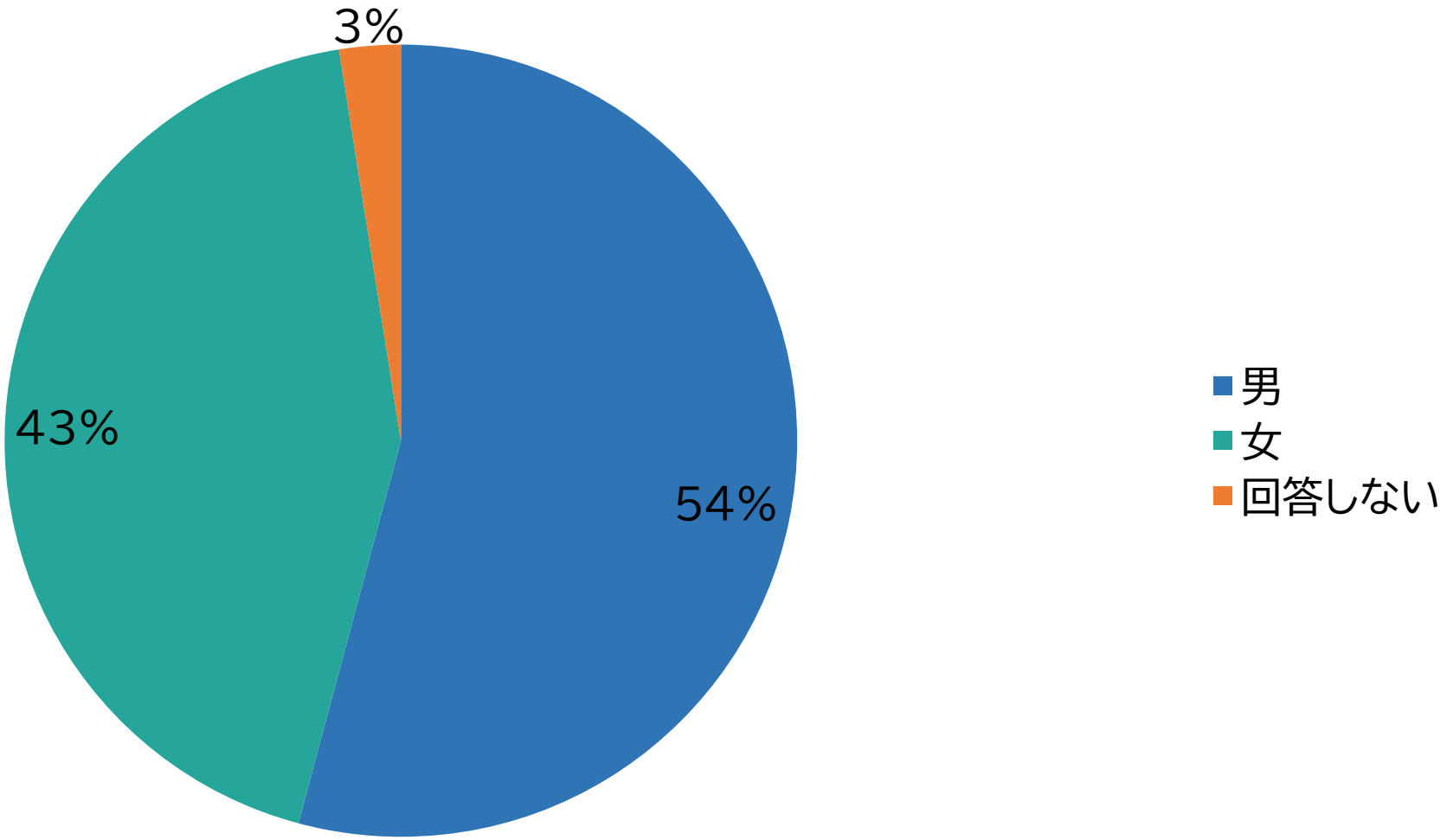
Q3　教職経験年数を教えてください



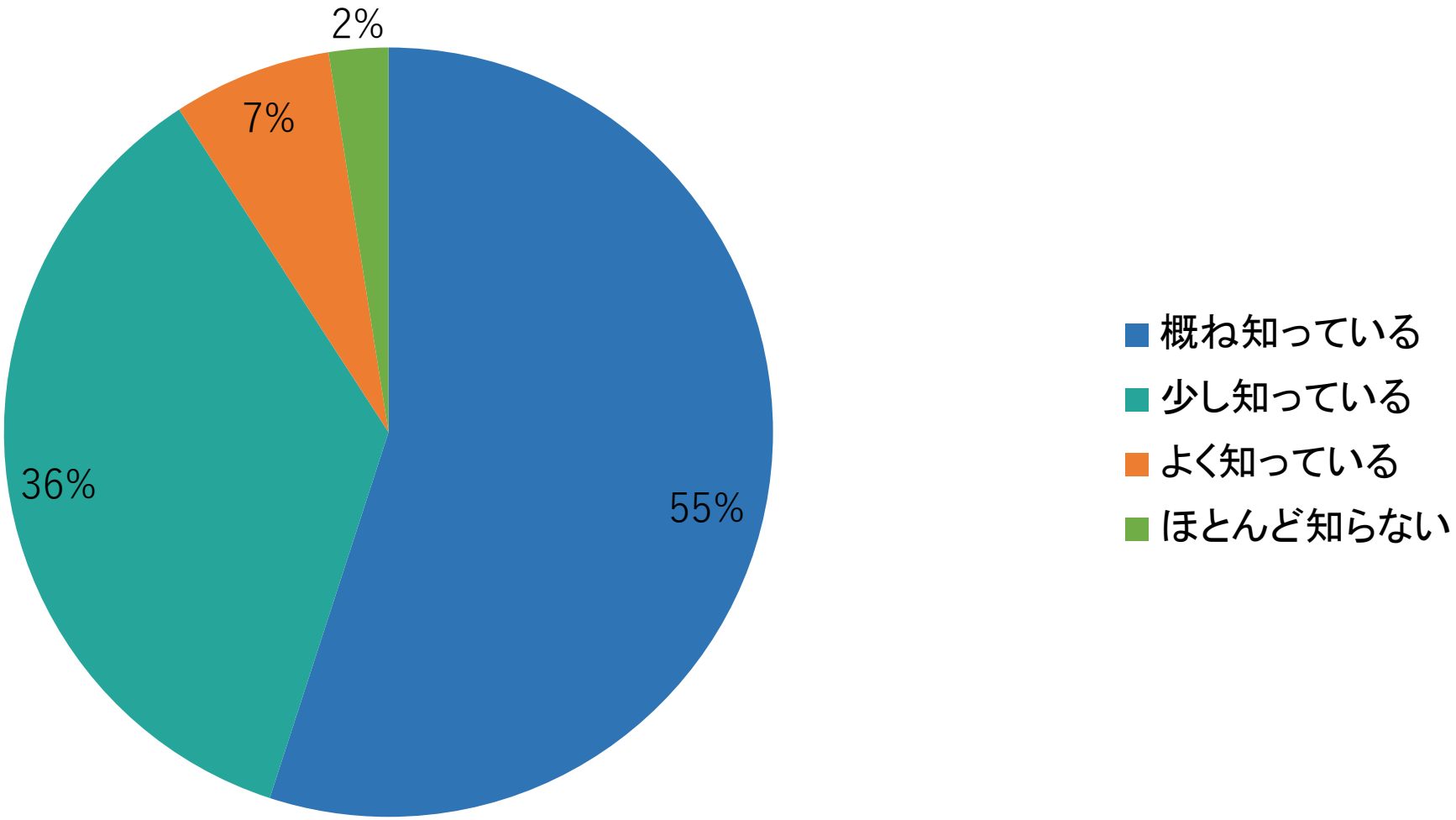
Q4　年齢を教えてください



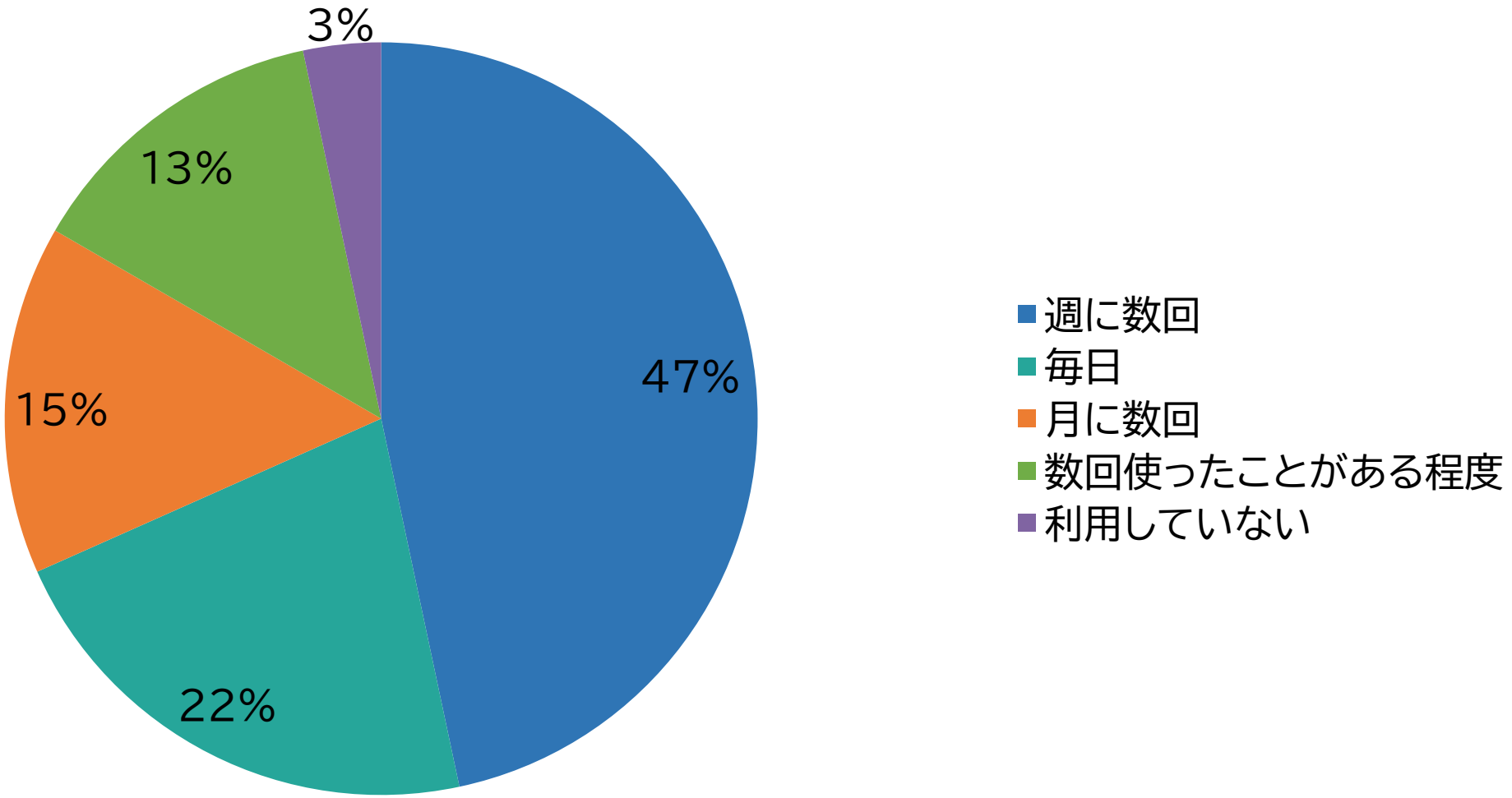
Q5　性別を教えてください



Q6　生成AIについてどの程度知っていますか

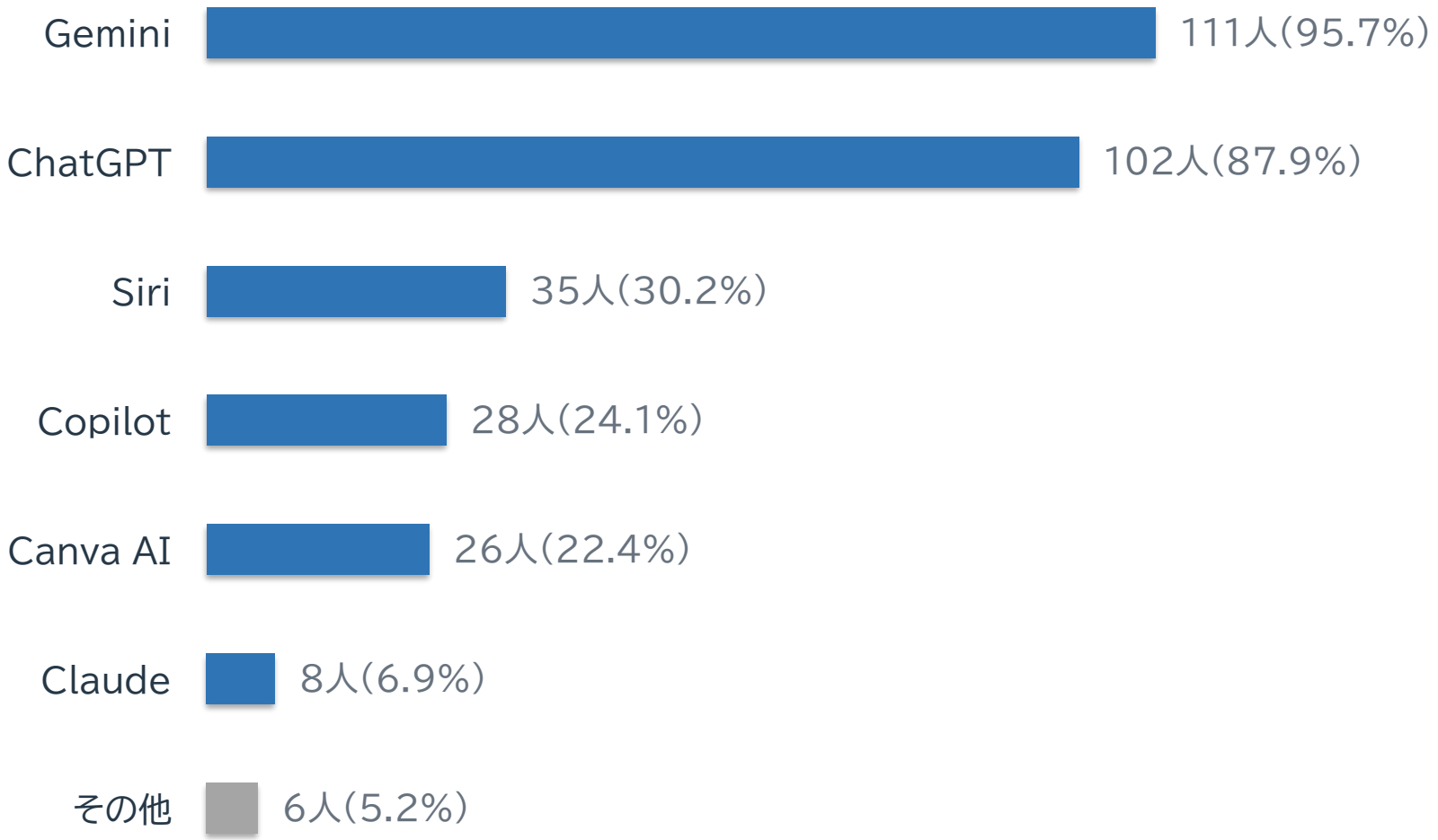


Q7　生成AIを使ったことがありますか



Q8　利用したことのある生成AIを選んでください（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）

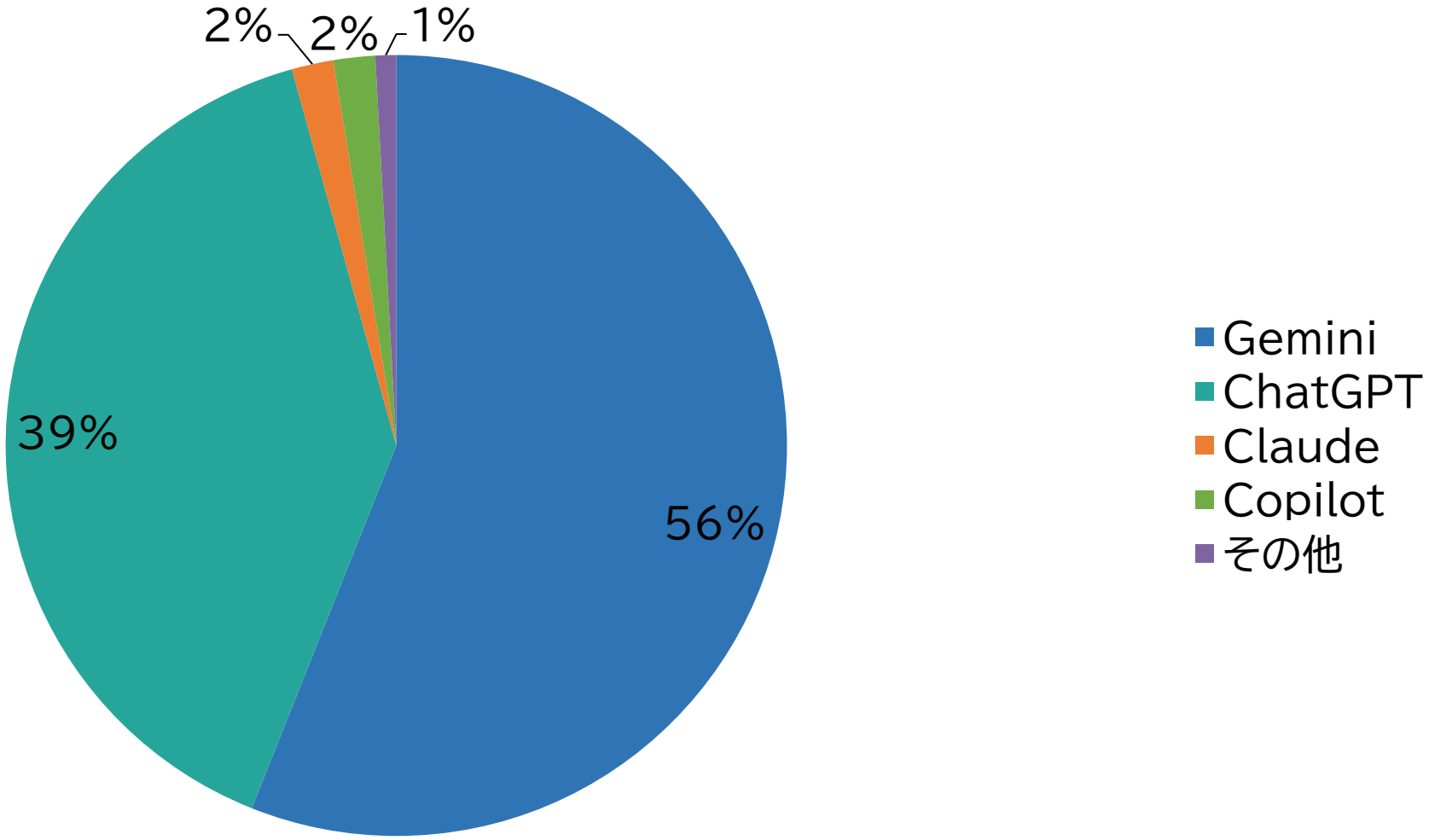


Q9　どの機器で利用していますか（複数回答可）

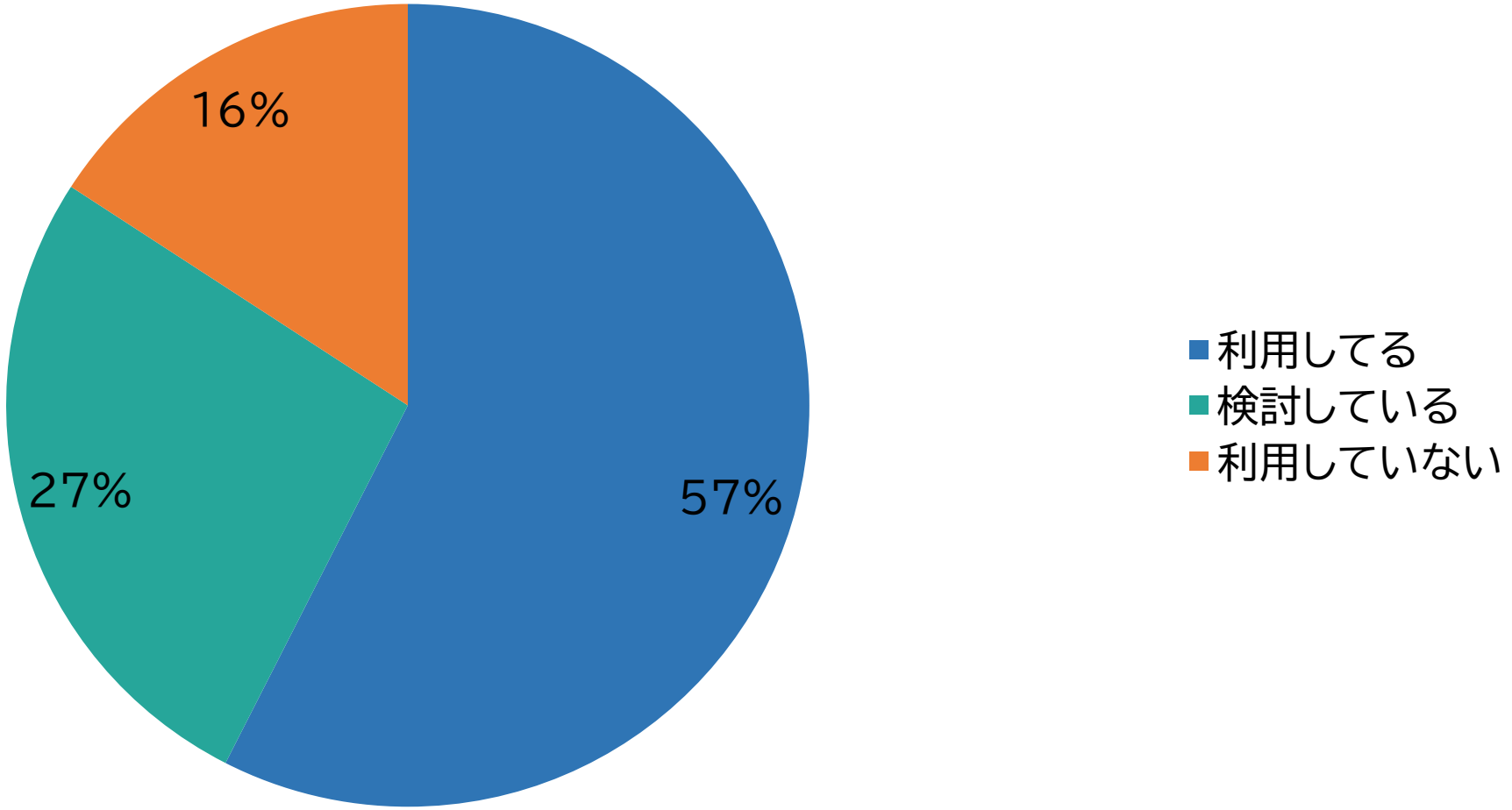
複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



Q10　どのサービスを一番よく利用していますか

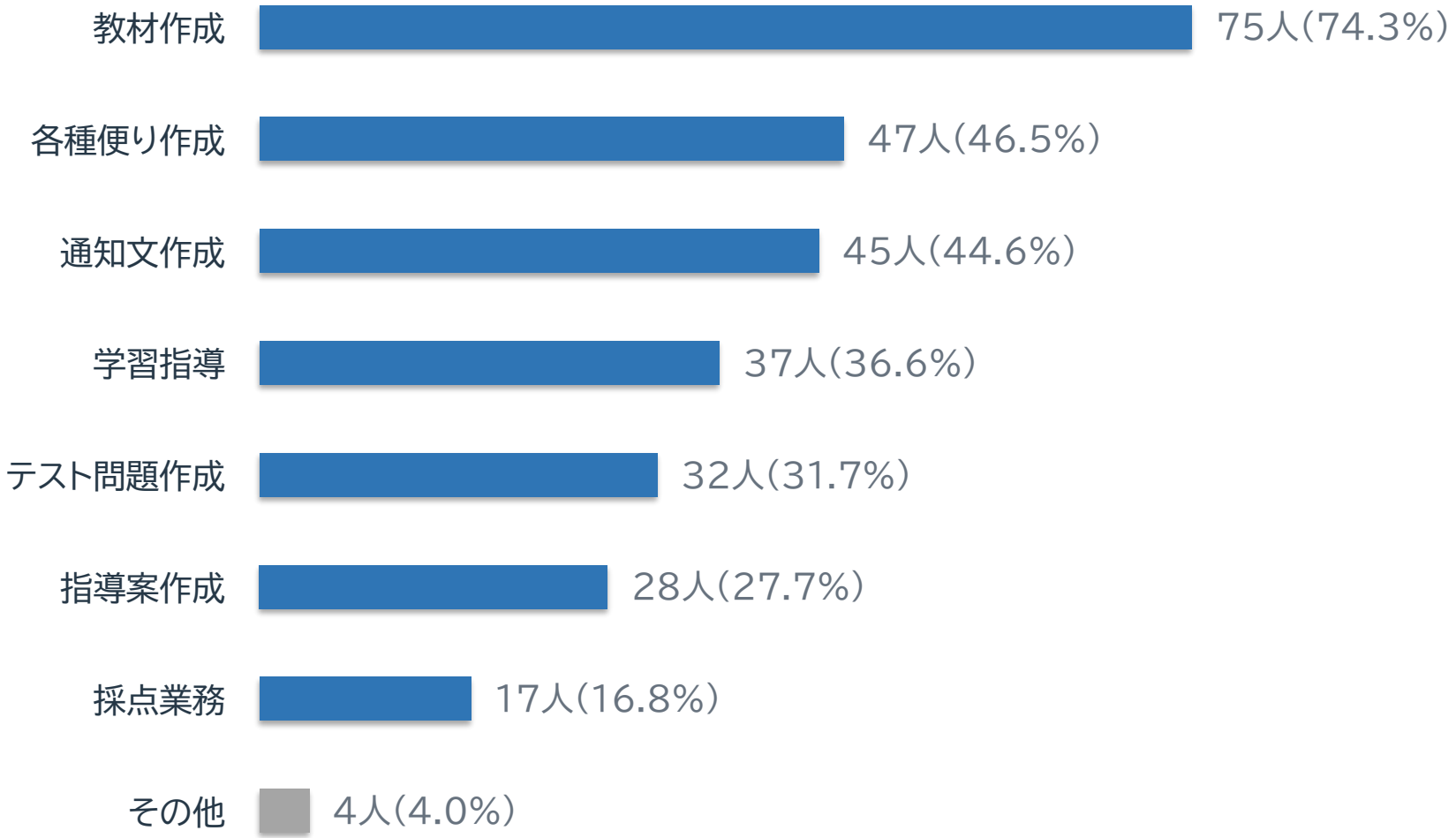


Q11　現在、教育活動で生成AIを利用していますか

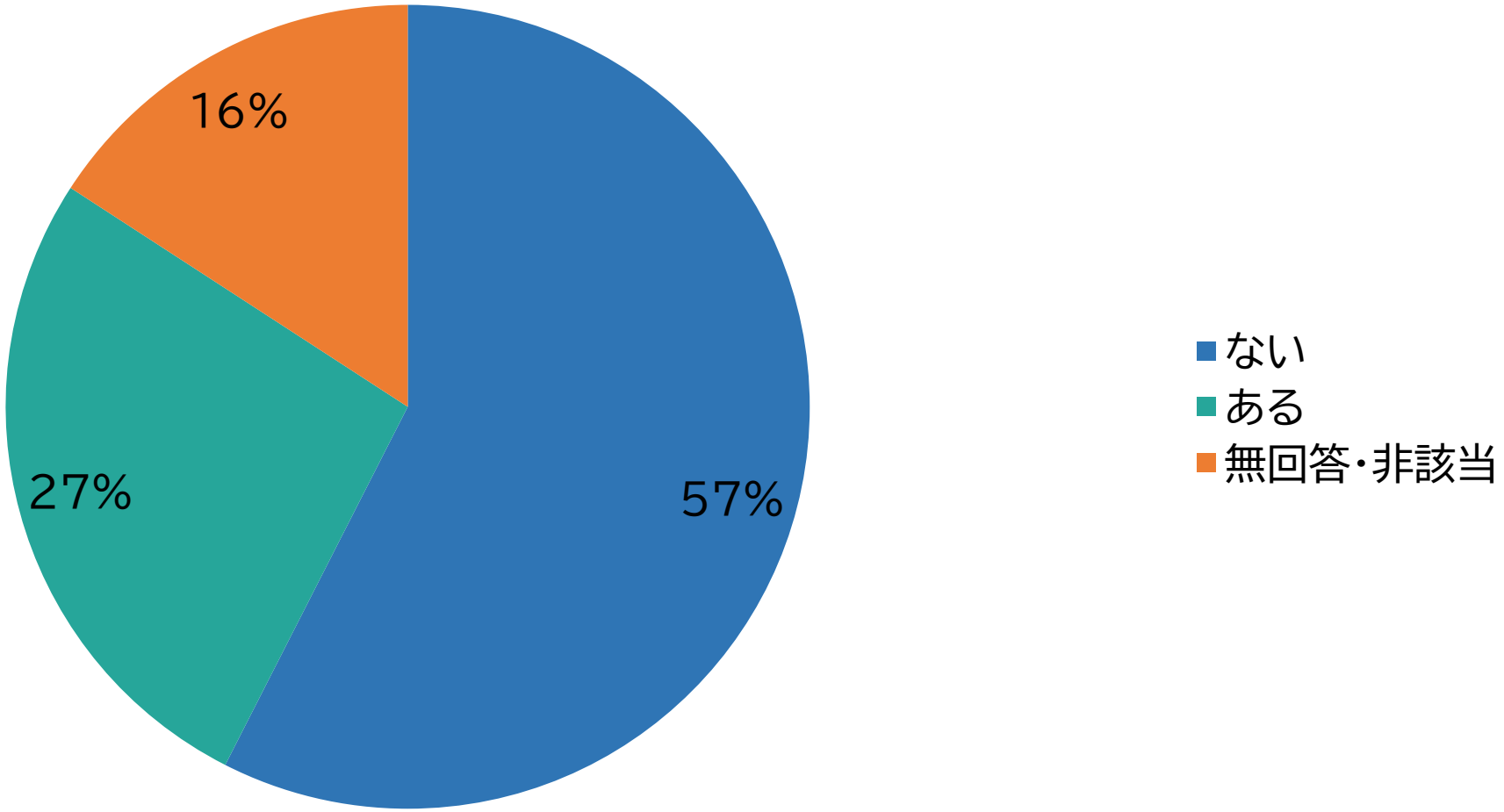


Q12　利用(検討を含む)している内容を選んでください(複数回答可)

複数回答(「その他」は自由入力等を集約)

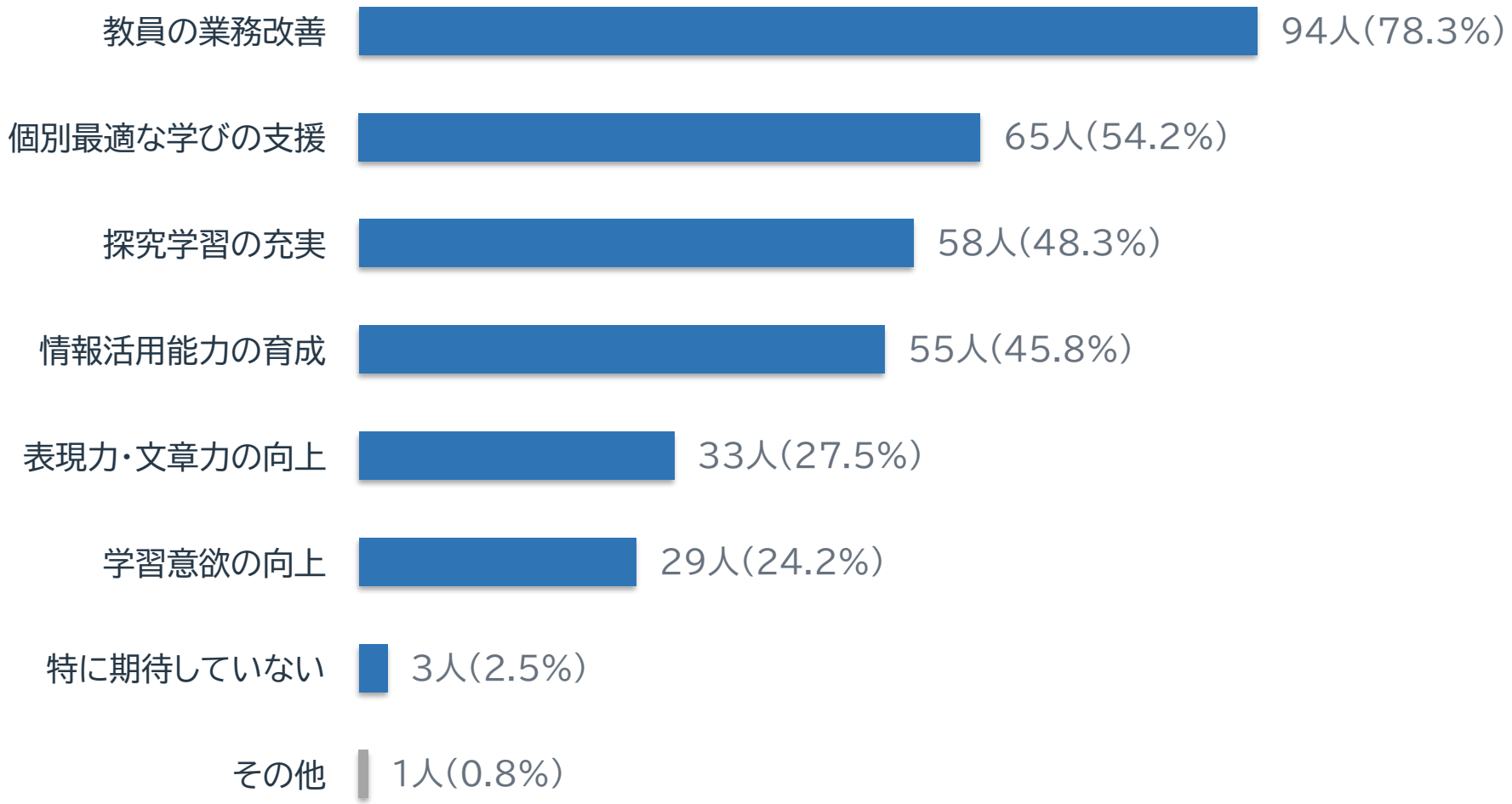


Q13　授業で生徒に利用させた経験がありますか



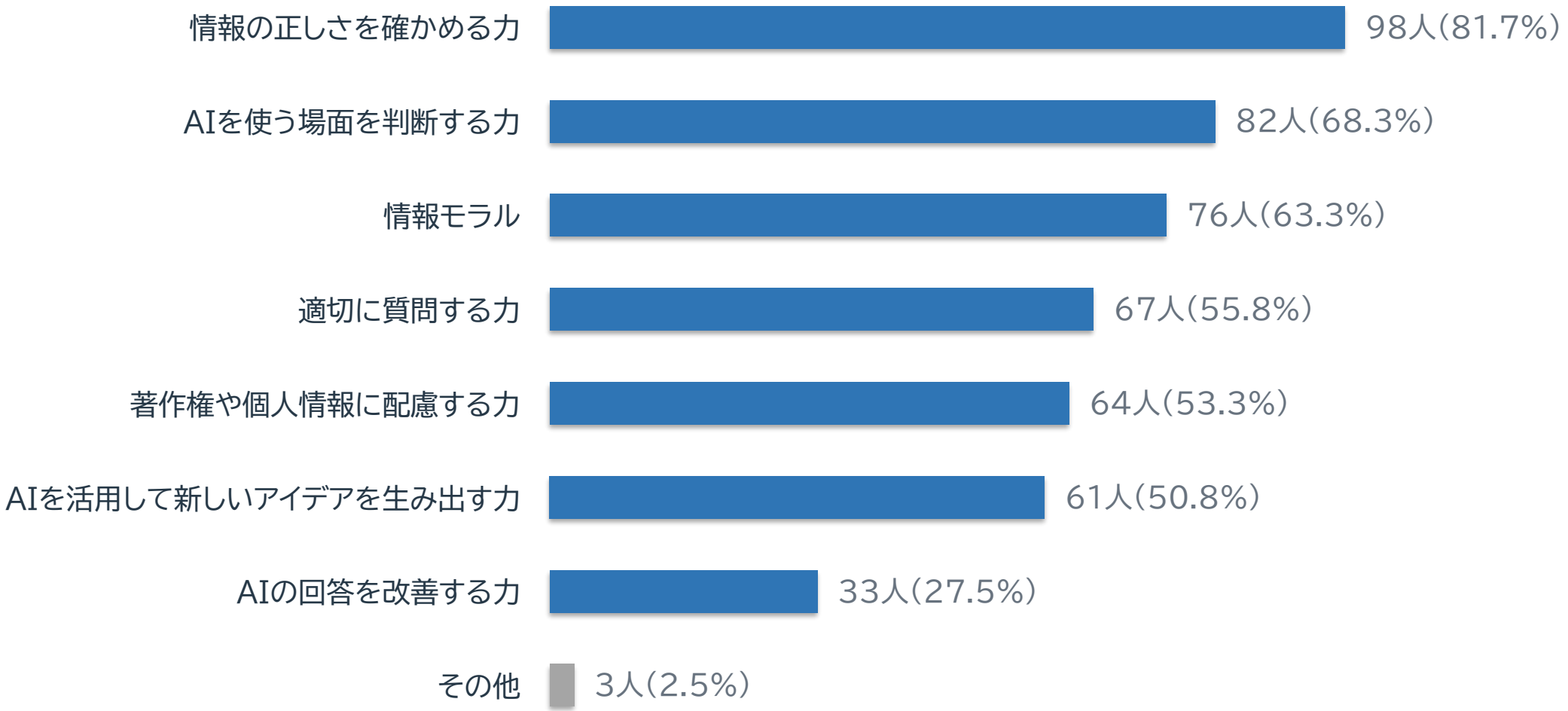
Q14　生成AIにはどのような教育的効果が期待できると思いますか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



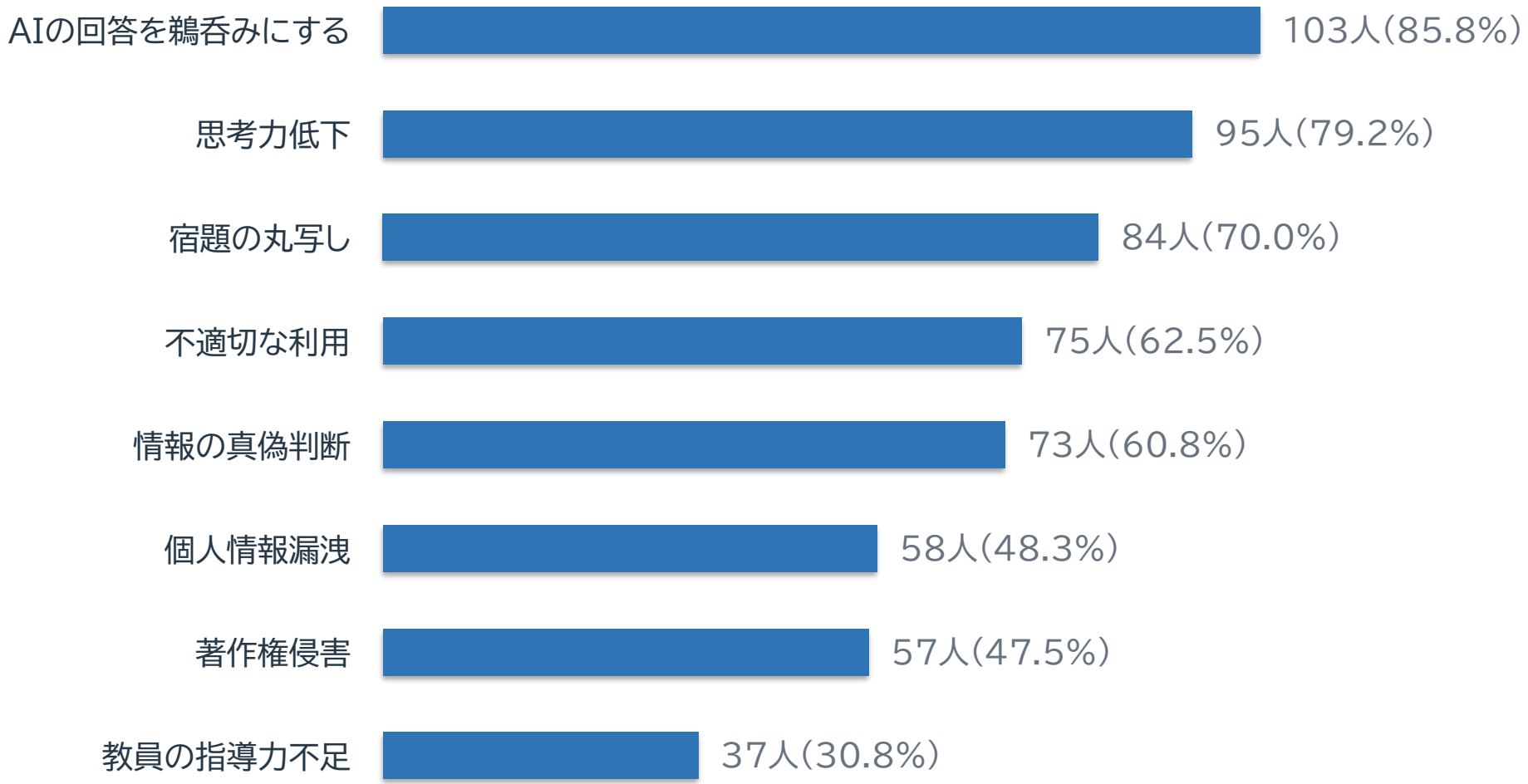
Q15　生徒に身に付けさせるべき力は何だと思いますか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



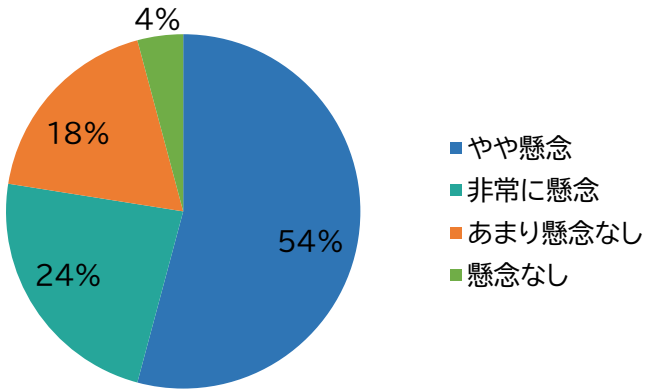
Q16　生徒の利用にどのような課題や懸念がありますか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）

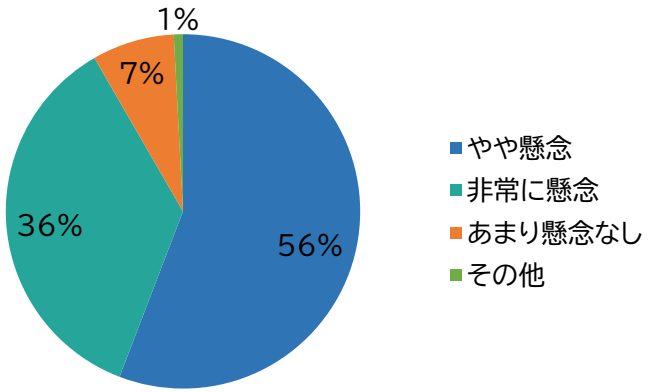


Q17　次の項目についてどの程度懸念していますか

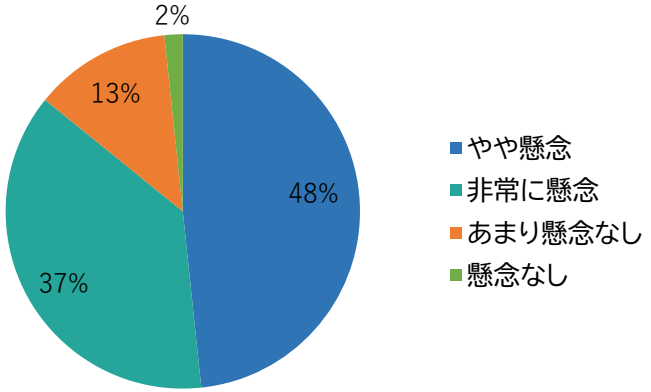
①学力への影響



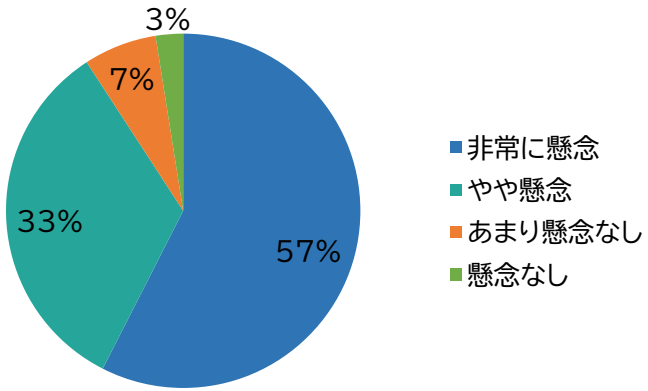
②個人情報保護



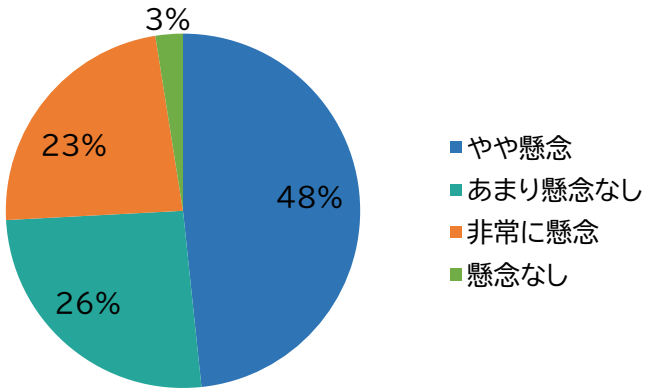
③著作権問題



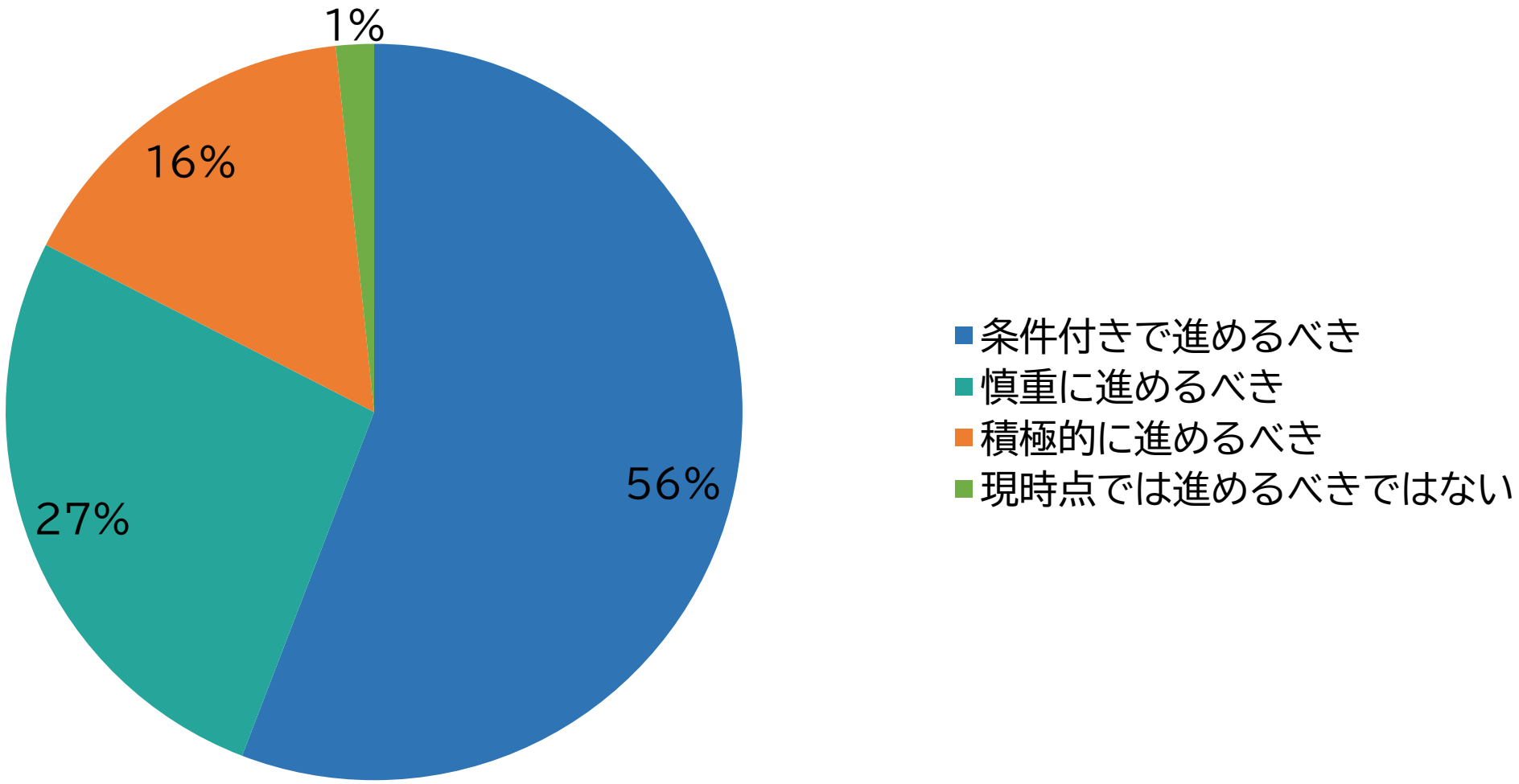
④依存・過度利用



⑤人権侵害・いじめ

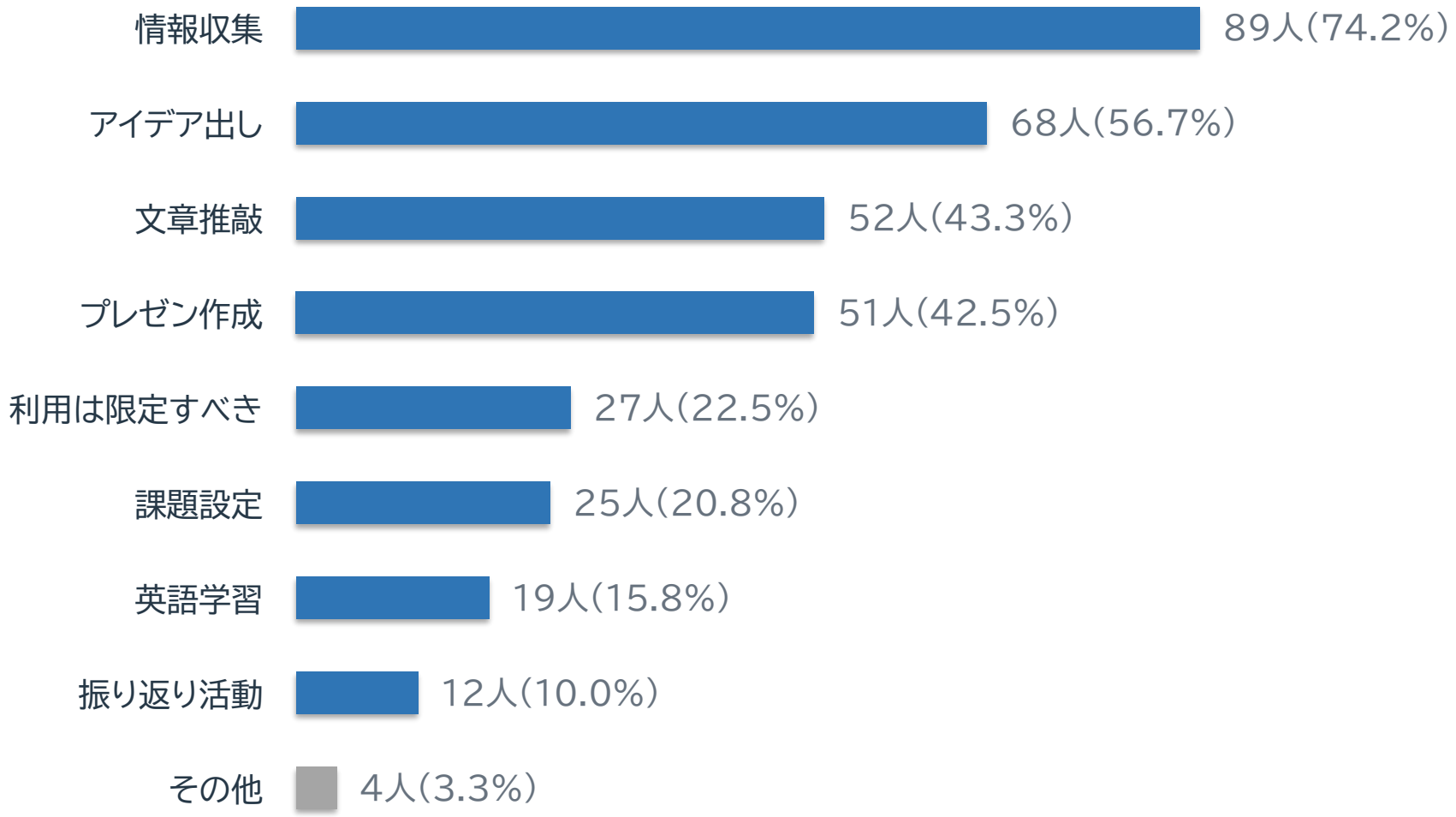


Q18　学校で生成AIを利用することについてどう思いますか



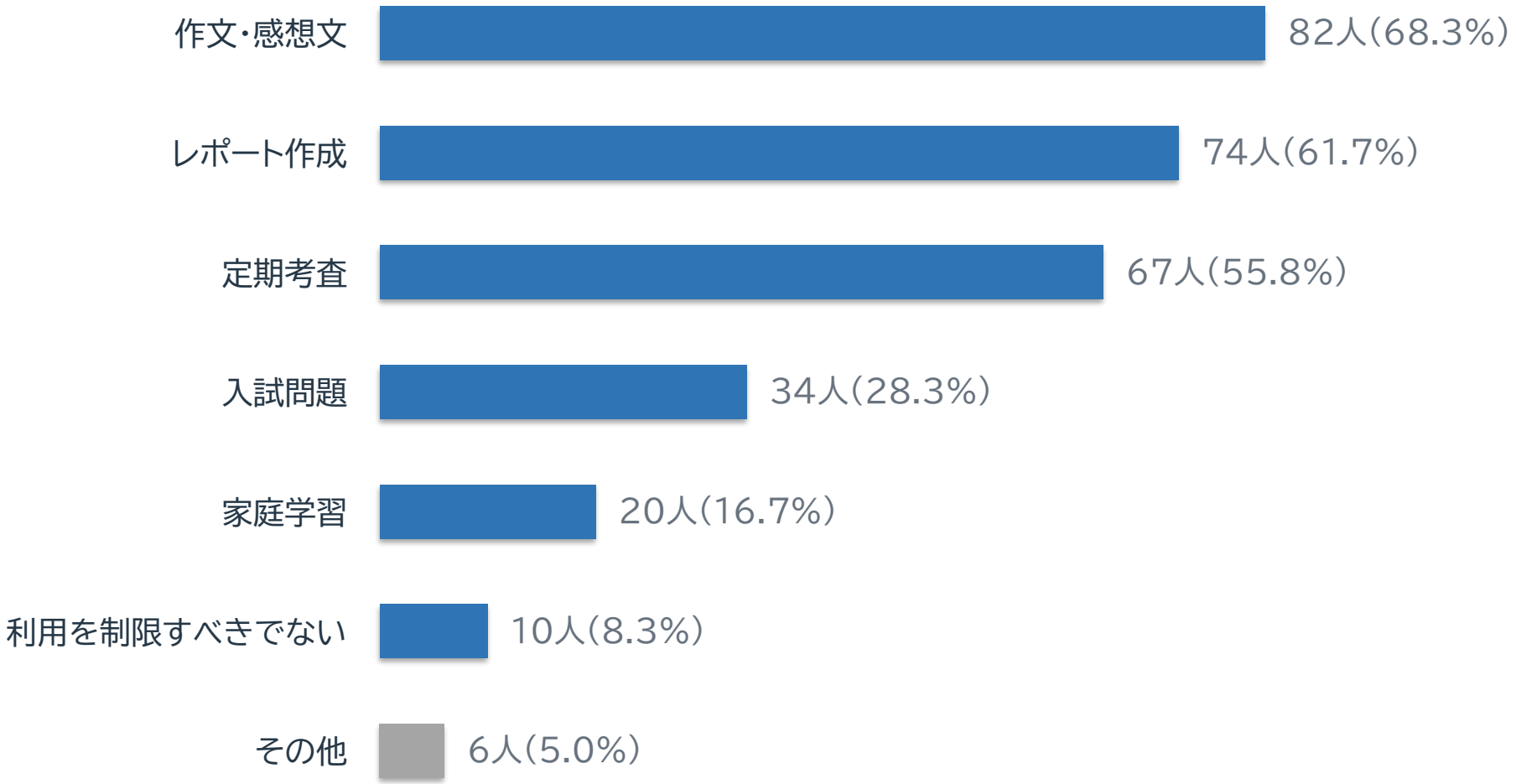
Q19　生徒による利用を認める場面として適切だと思うものを選んでください（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



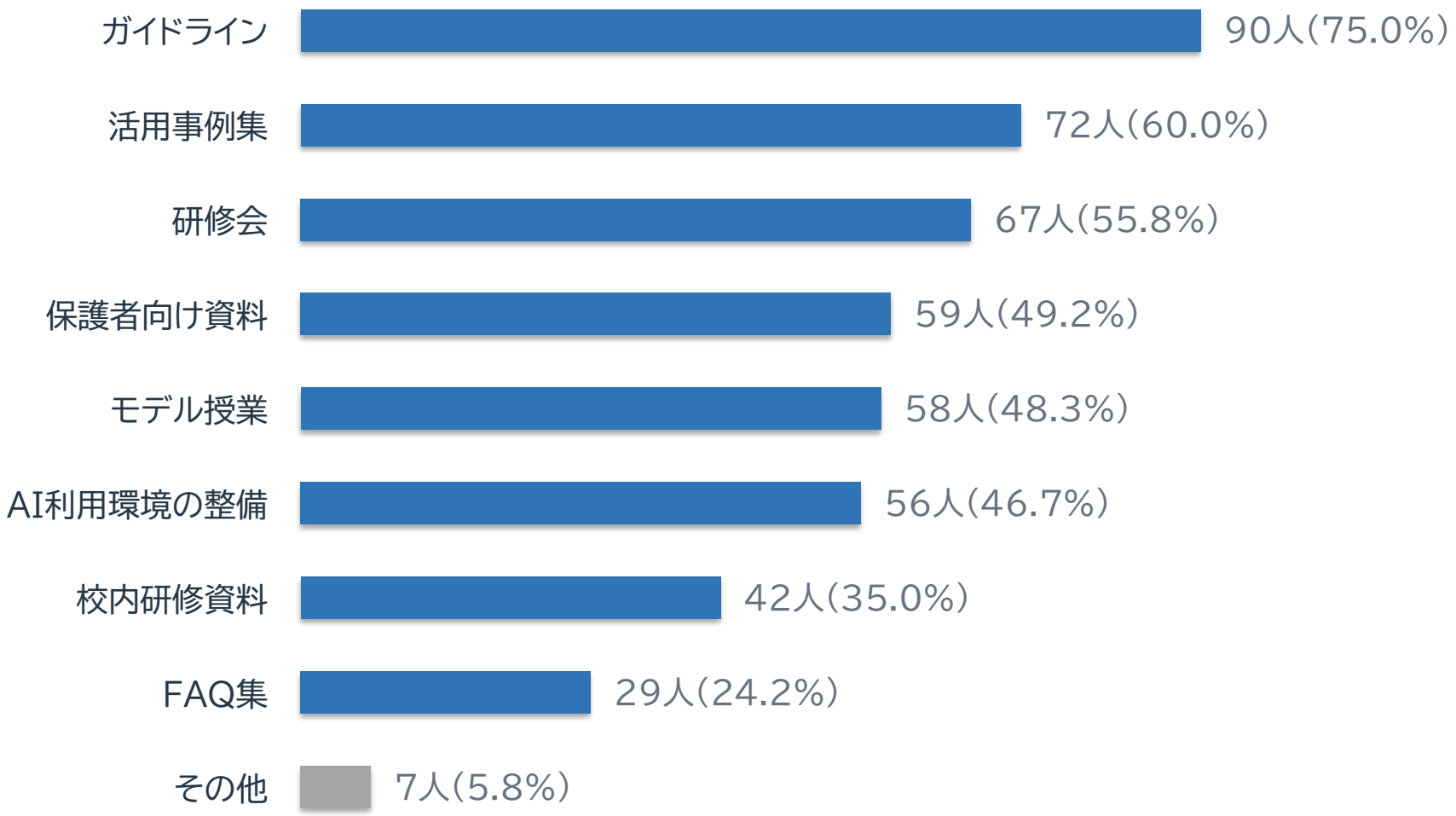
Q20　利用を制限すべき場面を選んでください（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



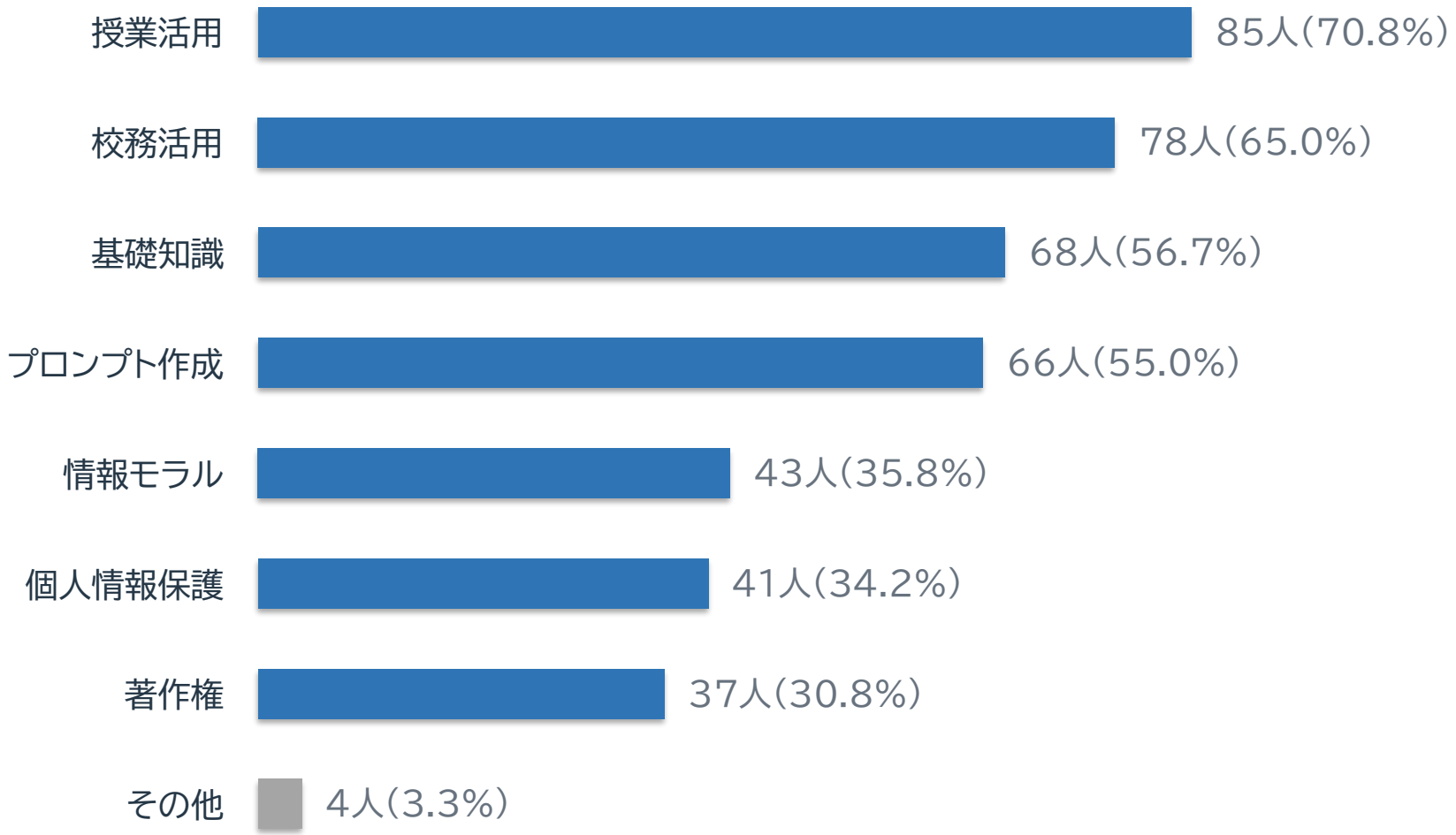
Q21　生成AIの利用を進めるために必要な支援は何ですか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



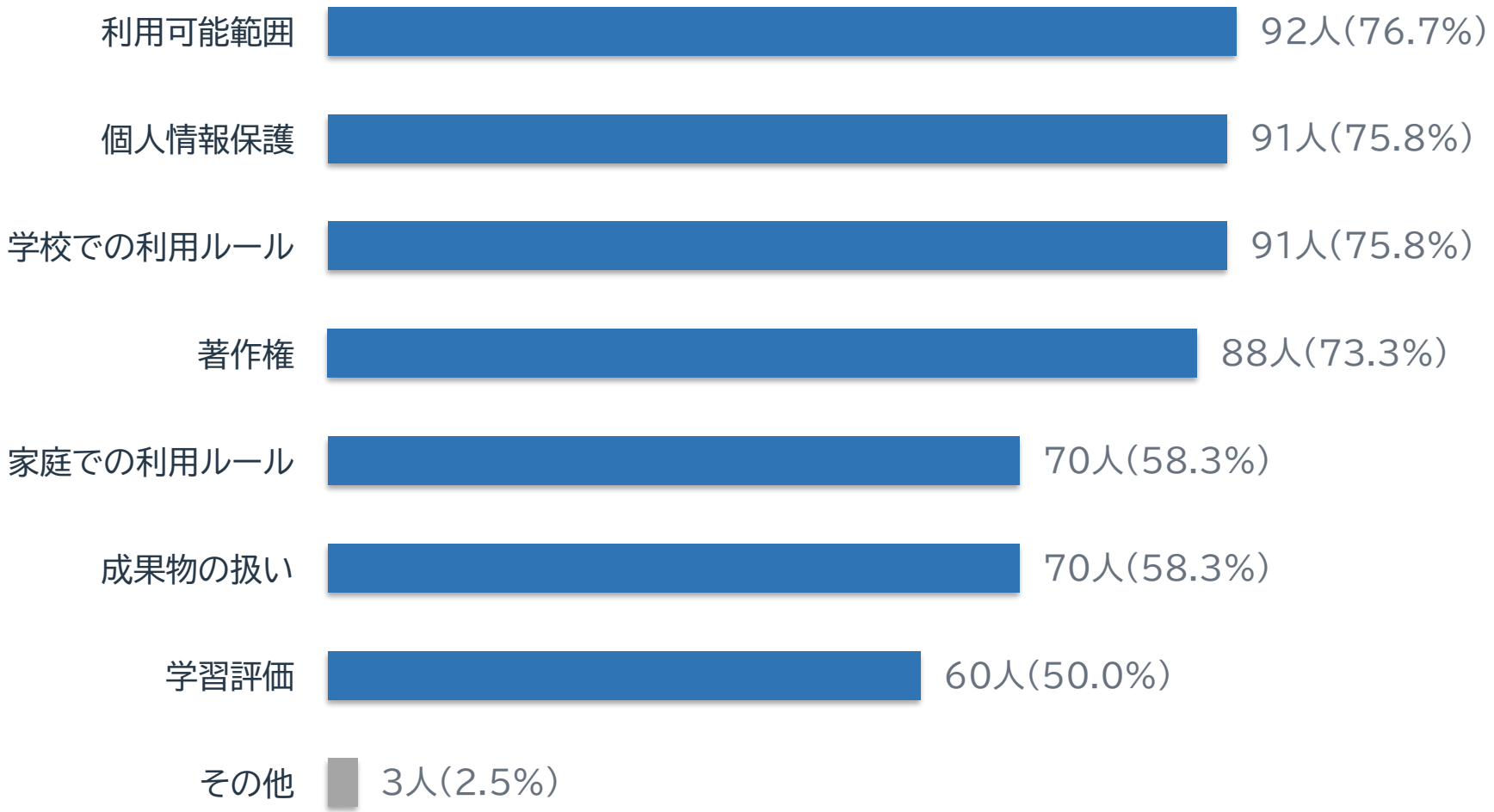
Q22　教員研修として希望する内容は何ですか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



Q23　ガイドラインに必ず盛り込むべき内容は何だと思いますか（複数回答可）

複数回答（「その他」は自由入力等を集約）



Q24　中学生の生成AI利用について、ご意見やご要望があればご記入ください。

「どれだけ制限しても、子供たちはAIと密接に関わって生きていき、AI利用が当たり前の時代を生きていくことを考えれば、いかに安全に行わせていくかという観点で取り組みを進めていく必要があると考えます。」

「完全に引用してはいけないが、必要に応じてアイディアを出してもらうのは非常に有効だと思います。」

「有効に活用できればよいと思います。」

「個人の興味関心について利用するのと学校教育という公の場で使用するのは違うということを十分に理解させる必要があると思う。そのためには、まず、教員が生成AIを教育活動で使用し、良い点・気を付ける点を把握する必要があると思う。」

「慎重になるべきだと思う。」

「どんな不適切な利用をするのか、不安だ。」